

## ◇ 調査の概要

## 1 調査の目的

会津美里町第10期高齢者福祉計画・会津美里町第9期介護保険事業計画（令和6～8年度）を策定の基礎資料とするため、日常生活圏域における高齢者ニーズ等を把握することを目的に調査を実施する。

## 2 調査の種類及び対象者

種 類	対 象 者
介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	令和4年12月21日現在、会津美里町内にお住まいの65歳以上の方から、地区別年齢階層別割合を考慮し無作為抽出（介護保険の要介護認定を受けている方を除く（要支援認定を受けている方は対象に含む）（1,600人）
在宅介護実態調査	令和4年12月21日現在、会津美里町内にお住まいの65歳以上の方で、介護保険の要支援、要介護の認定を受けている方（施設入所等の方を除く）から抽出（600人）

## 3 調査実施方法

種 類	実施方法
介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	郵送調査（郵送による配付、郵送による回収）形式
在宅介護実態調査	

## 4 アンケート回収結果

種 類	対象者数	回収数	白紙回答	有効回収数	有効回収率
介護予防・日常生活 圏域ニーズ調査	1,597 票	1,189 票	1 票	1,188 票	74.4%
在宅介護実態調査	597 票	378 票	3 票	375 票	63.3%

注：有効回収数=白紙回答を除いた数

## 5 調査期間

種 類	調査期間
介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	令和5年1月6日（金）～令和5年1月27日（金） （令和5年2月6日（月）到着分まで集計）
在宅介護実態調査	

## 6 集計について

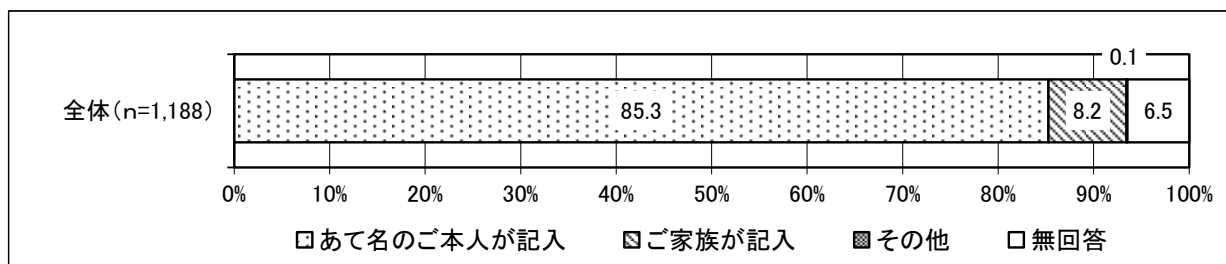
- ・集計結果を百分率（％）で表す場合、小数点第2位を四捨五入し第1位までの表記とした。このため、百分率の合計が100にならない場合がある。
- ・母数（n=●と表記）は、回答者全員が答えるべき設問については回答者数、条件付き設問については、その設問に答えるべき該当者の数とする。
- ・複数回答を可とした設問で、選択肢をひとつも選択しなかった場合は「無回答」として集計する。
- ・単数回答（一つのみ選択）の設問において、複数選択した場合は、上記と同様に「無回答」として集計する。
- ・グラフ表示に際して、選択肢が多い場合などは、一部値の小さい数値の表記を省略する場合がある。

## ◇介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

### 1 調査対象者の基本属性

#### (1) 調査票を記入されたのはどなたですか。(☑は一つ)

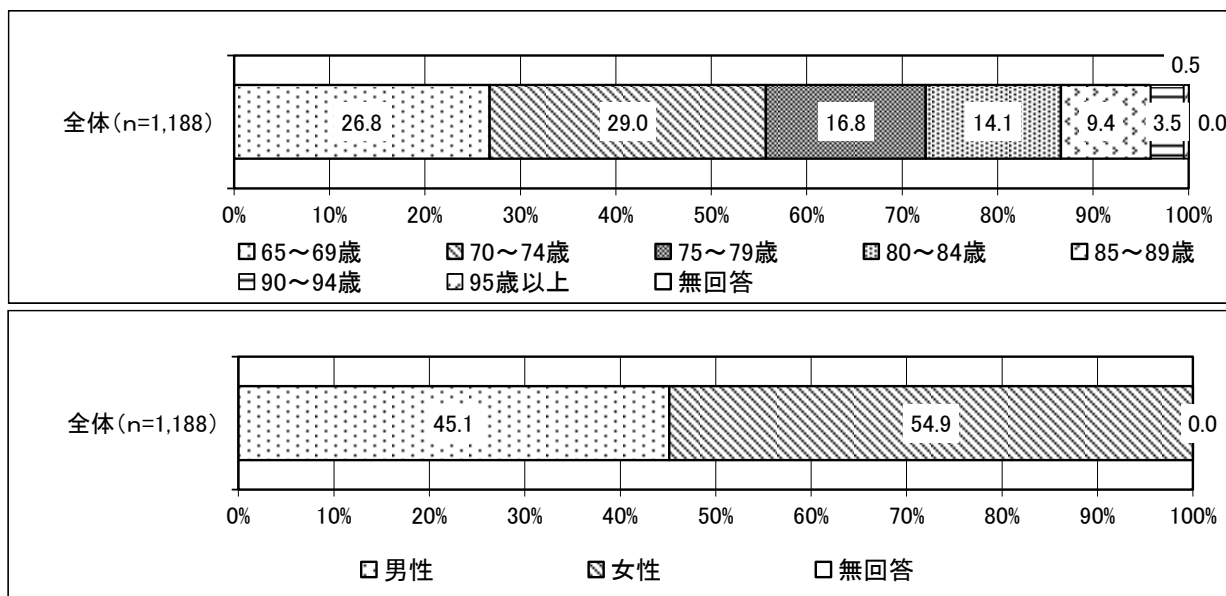
調査票の記入者は、「あて名のご本人」が 85.3%と多数を占め、「ご家族」は 8.2%となっている。



#### (2) 年齢・性別

年齢は、「70～74 歳」が 29.0%と最も高く、以下、「65～69 歳」(26.8%)、「75～79 歳」(16.8%)、「80～84 歳」(14.1%)、「85～89 歳」(9.4%)、「90～94 歳」(3.5%)、「95 歳以上」(0.5%)と続き、年齢が高くなるに従い比率は低下している。

性別は、「女性」が 54.9%、「男性」が 45.1%と、女性の比率が 9.8 ポイント高い。



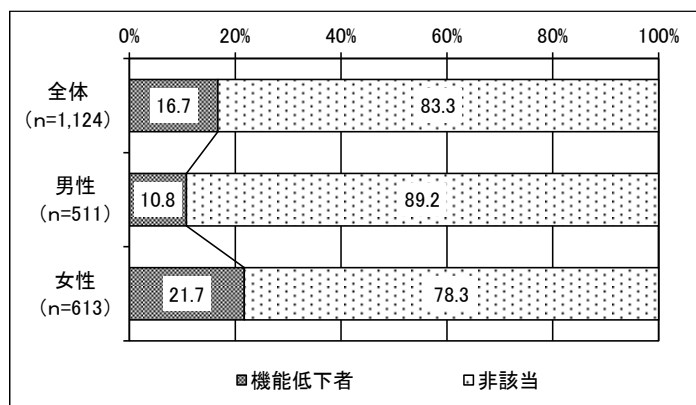
## 2 リスク判定

### (1) 運動器

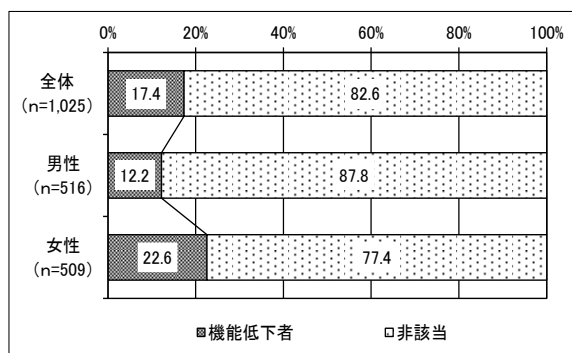
「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き」に基づき、運動器機能の低下している高齢者を判断する。

運動器機能の低下者は、全体では 16.7%となっており、性別では女性が、年齢別では年齢が高くなるほど機能低下者の割合は高くなり、特に 80 歳以上になると低下者割合が急増する。

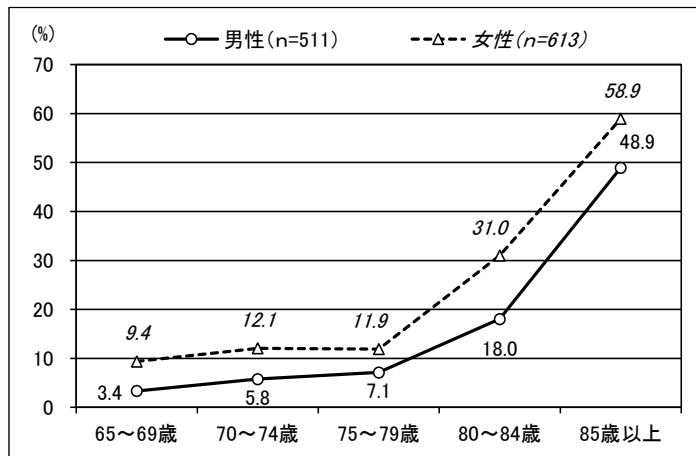
#### ◇運動器機能の低下者の状況



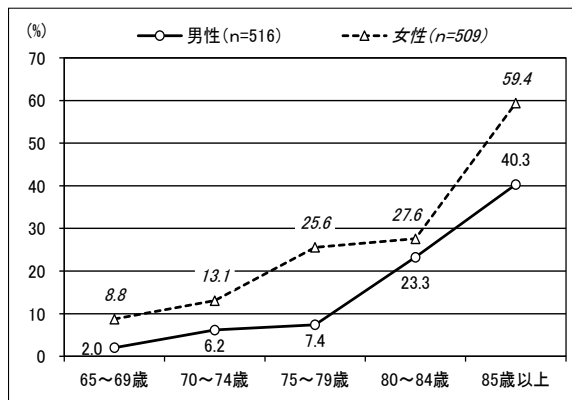
(前回：令和 2 年度)



#### ◇性・年齢階級別低下者の状況



(前回：令和 2 年度)



#### ◇判定方法

下記 5 問のうち 3 問以上該当する選択肢を回答した場合、運動器機能の低下している高齢者となる。

設 問	該当する選択肢
問 2(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
問 2(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
問 2(3) 15 分位続けて歩いていますか	3. できない
問 2(4) 過去 1 年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1 度ある
問 2(5) 転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である

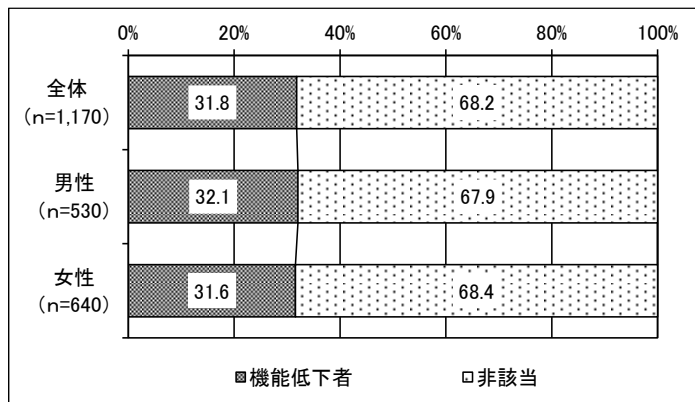
※上記設問のうち 1 問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

## (2) 転倒

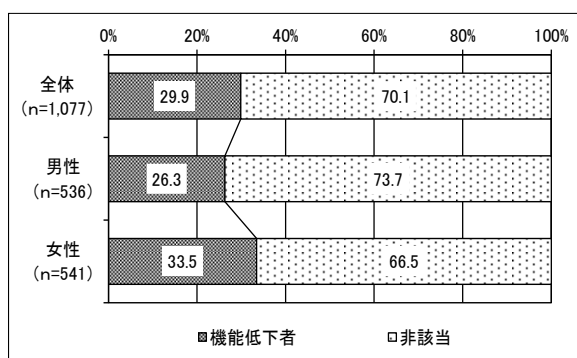
「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き」に基づき、転倒リスクのある高齢者を判断する。

転倒リスクのある高齢者は、全体では 31.8%となっており、性別による差異は少ない。なお、年齢別では男女とも 80 歳以上になると高齢者の割合が高くなっており、男性の方がやや高い。

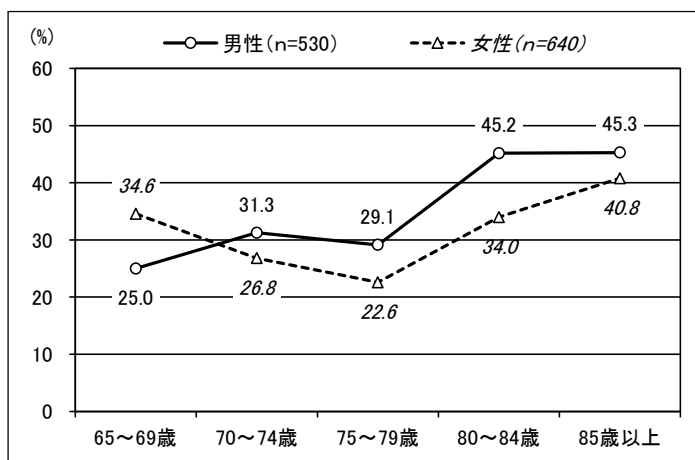
### ◇転倒リスクのある高齢者の状況



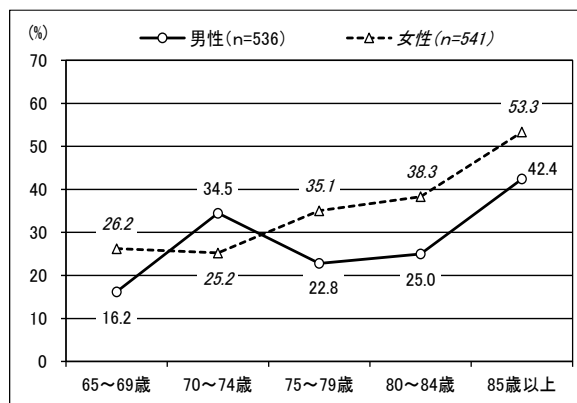
(前回：令和 2 年度)



### ◇性・年齢階級別転倒リスクのある高齢者の状況



(前回：令和 2 年度)



### ◇判定方法

下記の設問において該当する選択肢を回答した場合、転倒リスクのある高齢者となる。

設 問	該当する選択肢
問 2(4) 過去 1 年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1 度ある

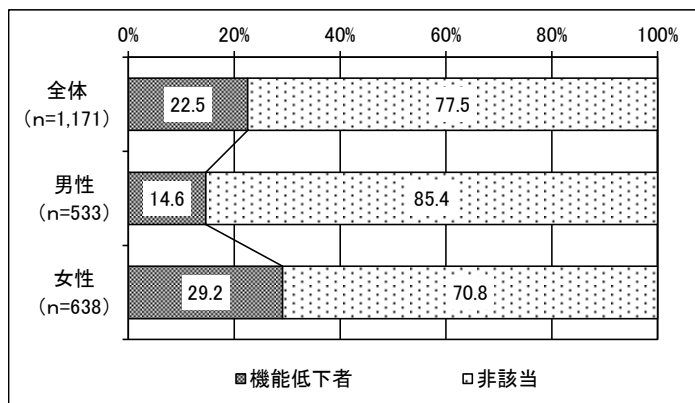
※上記設問の回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

### (3) 閉じこもり

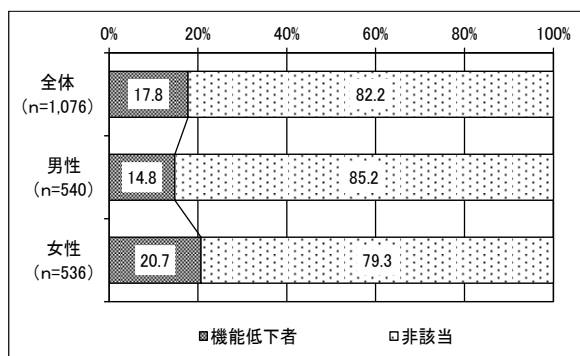
「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き」に基づき、閉じこもり傾向のある高齢者を判断する。

閉じこもり傾向のある高齢者は、全体では 22.5% となっており、性別では女性が、年齢別では年齢が高くなるほど閉じこもり傾向のある高齢者の割合は高くなり、男女とも 85 歳以上になると該当者割合が急増し、女性は 69.3%、男性は 47.2% となっている。

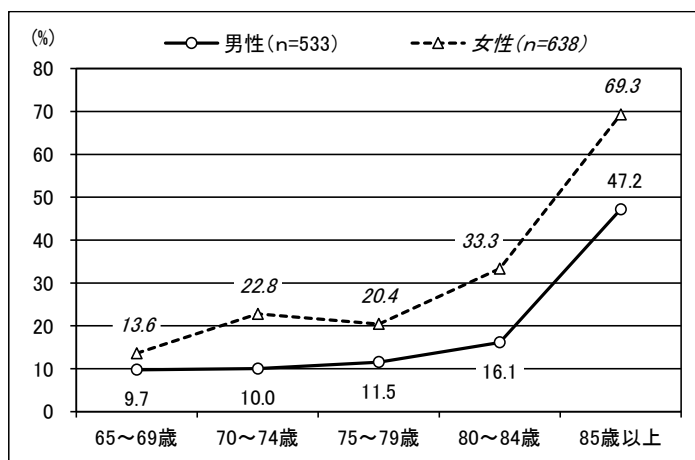
◇閉じこもり傾向のある高齢者の状況



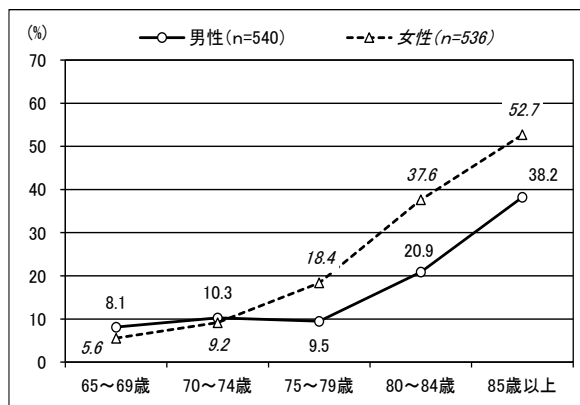
(前回：令和 2 年度)



◇性・年齢階級別閉じこもり傾向のある高齢者の状況



(前回：令和 2 年度)



◇判定方法

下記の設問において該当する選択肢を回答した場合、閉じこもり傾向のある高齢者となる。

設 問	該当する選択肢
問 2(6) 週に 1 回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週 1 回

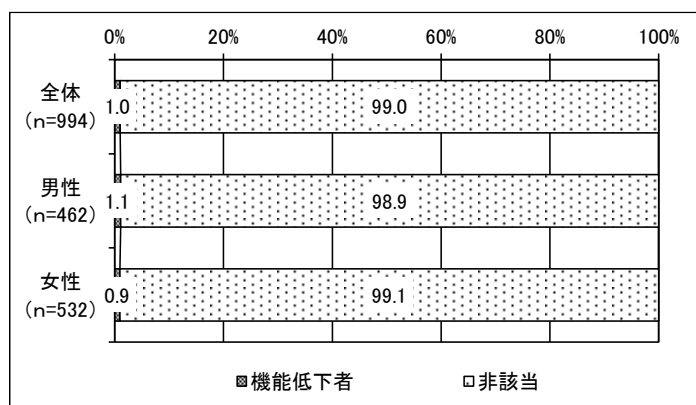
※上記設問の回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

#### (4) 低栄養

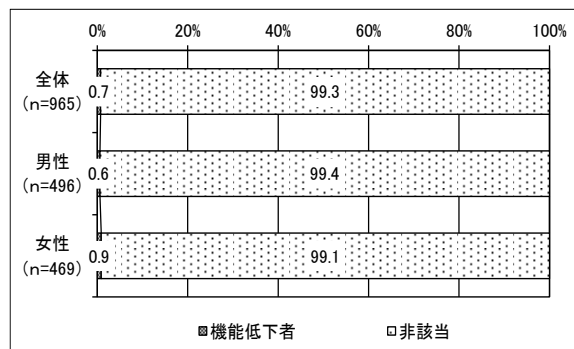
「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き」に基づき、低栄養状態にある高齢者を判断する。

低栄養状態にある高齢者は、全体では1.0%となっており、性・年齢別による差異は少ないが、男性の75～79歳が3.3%とやや高くなっている。

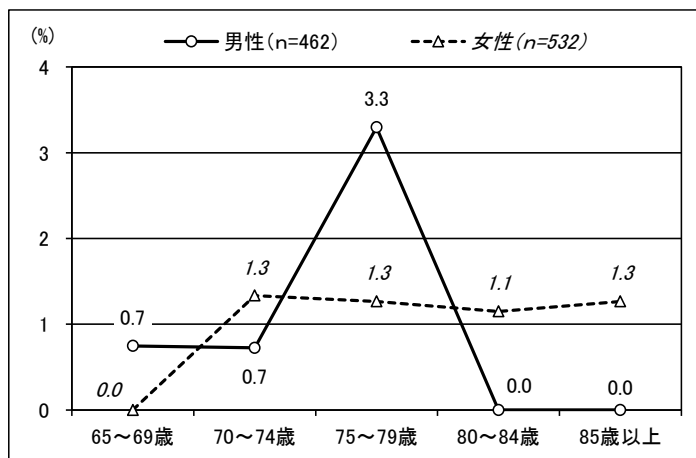
##### ◇低栄養状態にある高齢者の状況



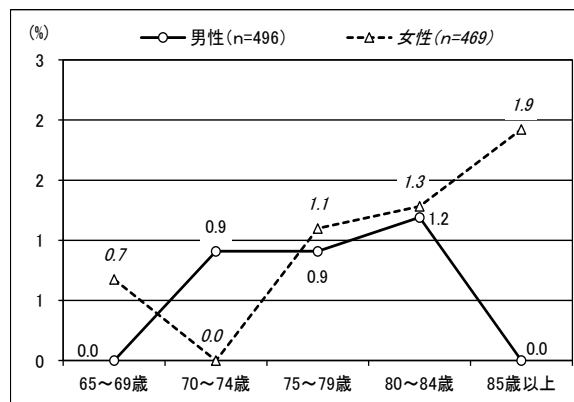
(前回：令和2年度)



##### ◇性・年齢階級別低栄養状態にある高齢者の状況



(前回：令和2年度)



##### ◇判定方法

下記2問のうち2問とも該当する選択肢を回答した場合、低栄養状態にある高齢者となる。

設 問	該当する選択肢
問3(1) 身長・体重	BMIが18.5以下 ※BMI=体重(kg)÷(身長(m)×身長(m))
問3(7) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい

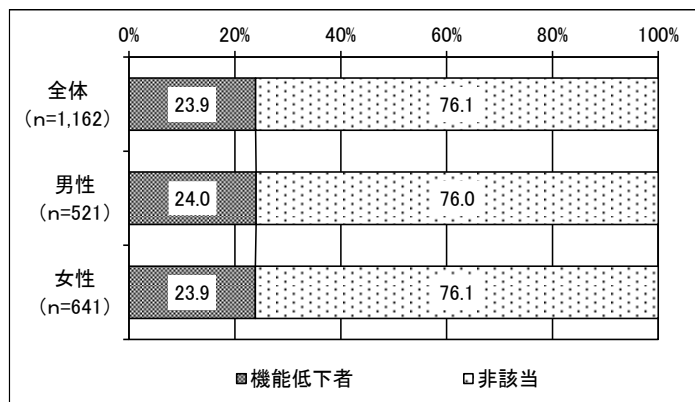
※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

## (5) 口腔機能

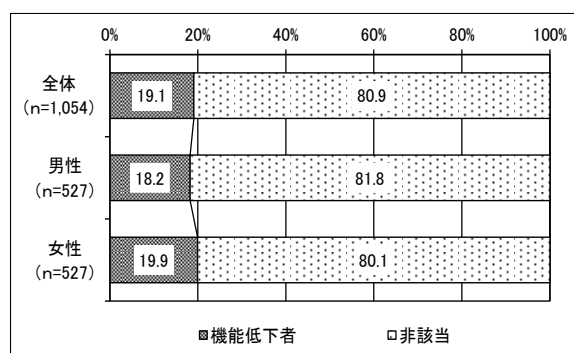
「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き」に基づき、口腔機能の低下している高齢者を判断する。

口腔機能の低下している高齢者は、全体では 23.9%となっており、性・年齢別にみると、男性は 85 歳以上、女性は 80 歳以上になると該当者割合が増加し、85 歳以上では男性が 42.0%、女性は 31.1%となっている。

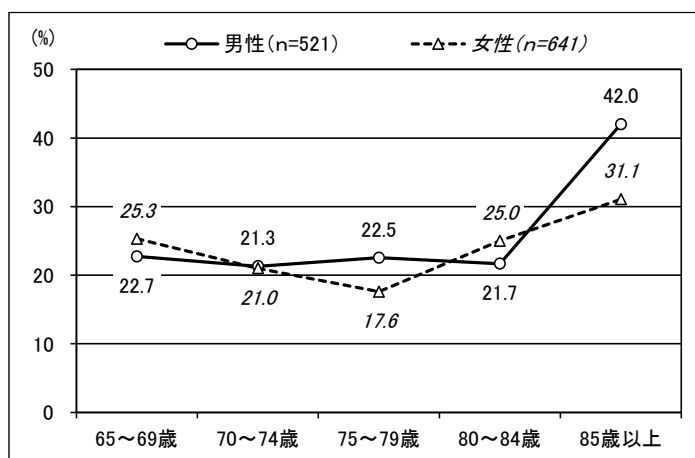
### ◇口腔機能の低下している高齢者の状況



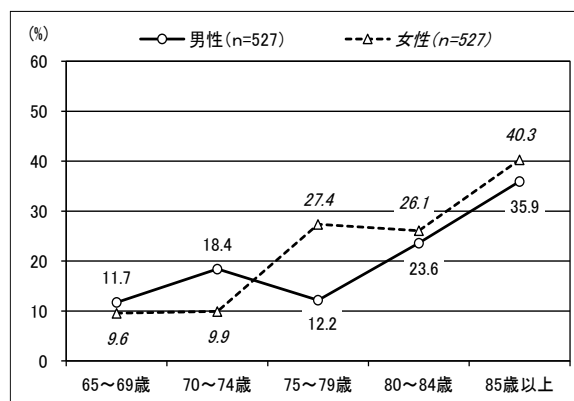
(前回：令和 2 年度)



### ◇性・年齢階級別口腔機能の低下している高齢者の状況



(前回：令和 2 年度)



### ◇判定方法

下記 3 問のうち 2 問以上該当する選択肢を回答した場合、口腔機能の低下している高齢者となる。

設 問	該当する選択肢
問 3(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
問 3(3) お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい
問 3(4) 口の渇きが気になりますか	1. はい

※上記設問のうち 1 問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

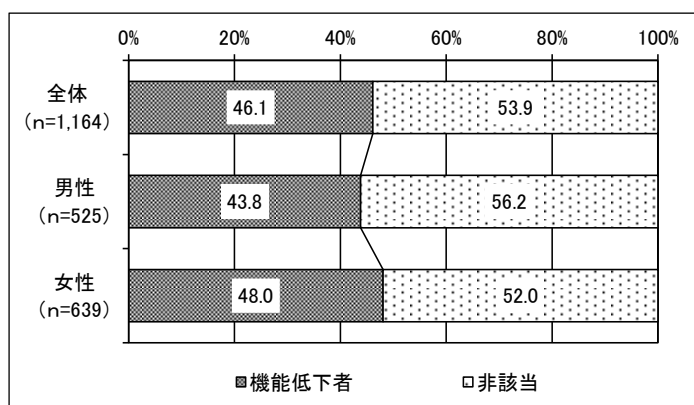


## (6) 認知機能

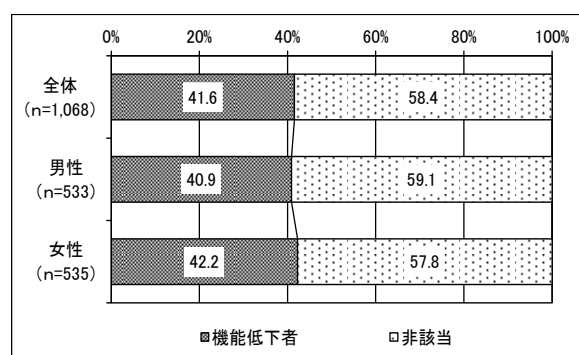
「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き」における判断基準を踏まえ、認知機能の低下している高齢者を判断する。

認知機能の低下している高齢者は、全体では 46.1%となっており、性・年齢別にみると、女性及び年齢が高くなるほど認知機能の低下している高齢者の割合は高くなる傾向があり、男女とも 85 歳以上になると 6 割を超える。

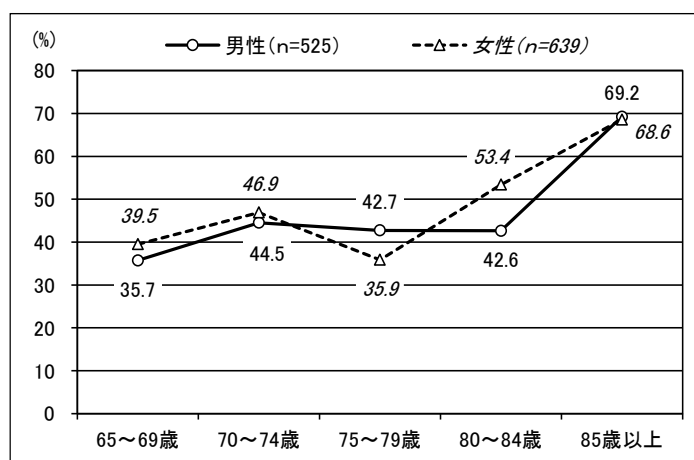
### ◇認知機能の低下している高齢者の状況



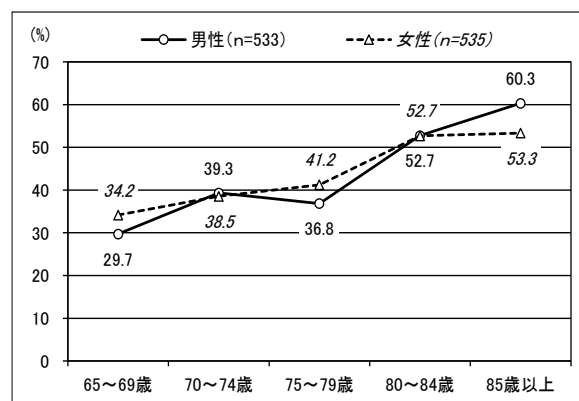
(前回：令和 2 年度)



### ◇性・年齢階級別認知機能の低下している高齢者の状況



(前回：令和 2 年度)



### ◇判定方法

下記の設問において該当する選択肢を回答した場合、認知機能が低下している高齢者と判断する。

設 問	該当する選択肢
問 4(1) 物忘れが多いと感じますか	1. はい

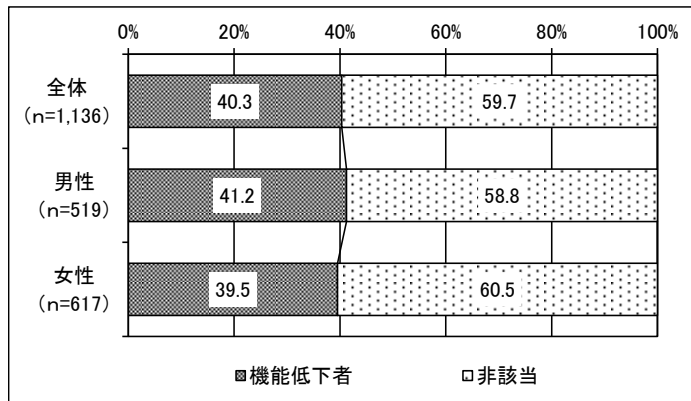
※上記設問に回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

## (7) うつ傾向

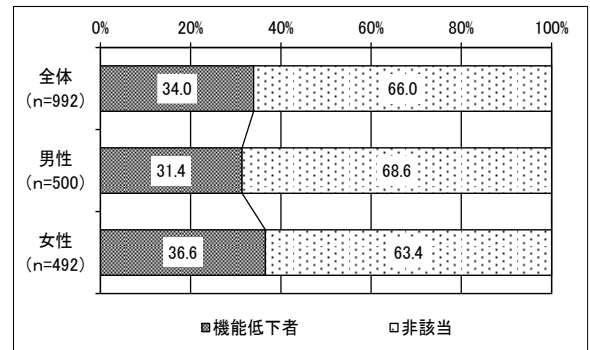
「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き」に基づき、うつ傾向の高齢者を判断する。

うつ傾向の高齢者は、全体では 40.3% となっており、やや男性の比率が高い。また、年齢が高くなっても比率は 40% 前後で推移する横ばい傾向が見受けられる。

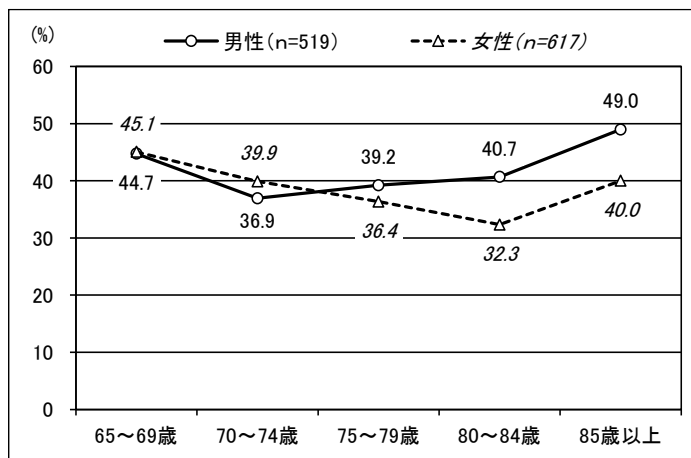
### ◇うつ傾向の高齢者の状況



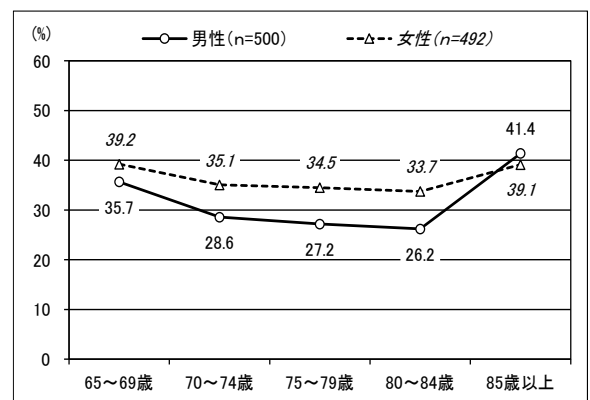
(前回：令和 2 年度)



### ◇性・年齢階級別うつ傾向の高齢者の状況



(前回：令和 2 年度)



### ◇判定方法

下記 2 問のうち、いずれか 1 問でも該当する選択肢を回答した場合、うつ傾向の高齢者となる。

設 問	該当する選択肢
問 7(3) この 1 か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい
問 7(4) この 1 か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい

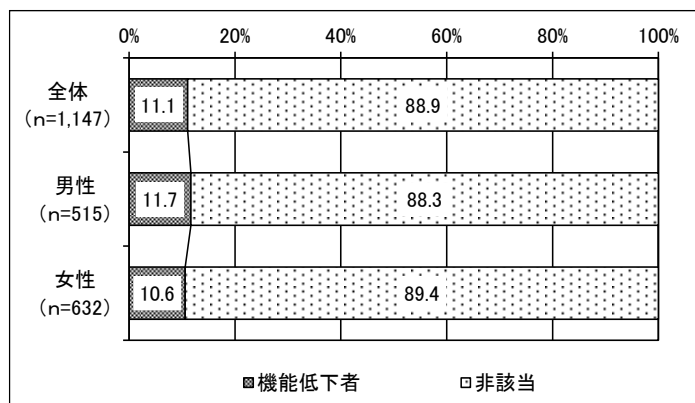
※上記設問のうち 1 問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

## (8) 手段的日常生活動作 (IADL)

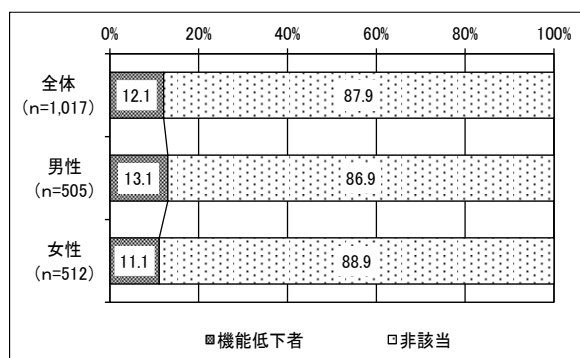
老研式活動能力指標をもとに、手段的日常生活動作（活動的な日常生活をおくるための動作能力）を判断する。

低下者（4点以下とする）割合は、全体では 11.1%となっており、性・年齢別にみると、年齢が高くなるほど低下者の割合は高くなる傾向があり、男女とも 85 歳以上になると急増し、4 割を超える。

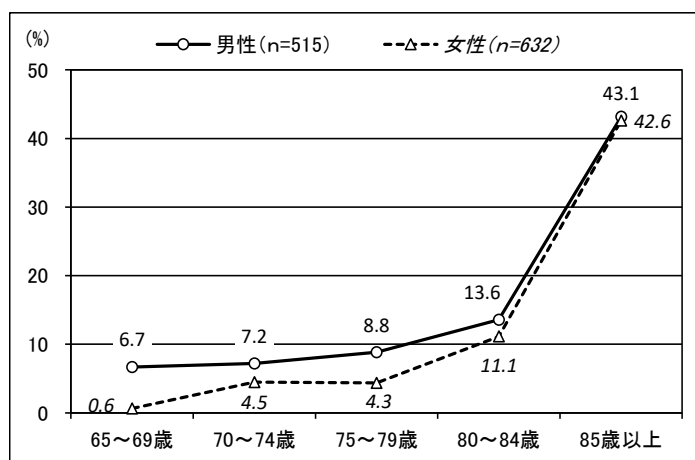
### ◇手段的日常生活動作の低下者の状況



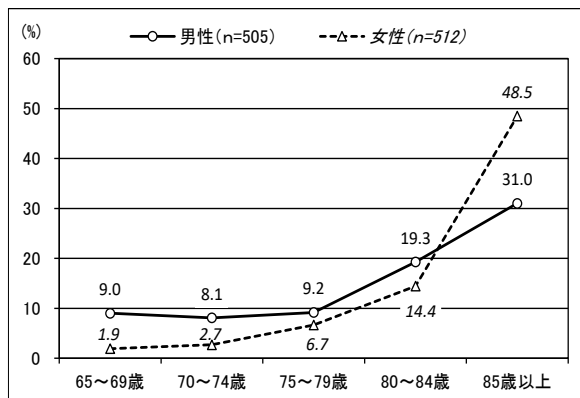
(前回：令和 2 年度)



### ◇性・年齢階級別手段的日常生活動作の低下者の状況



(前回：令和 2 年度)



### ◇判定方法

下記 5 問で、5 点=問題なし、4 点：やや低い、0～3 点：低い

設 問	該当する選択肢
問 4(4) バスや電車を使って 1 人で外出していますか(自家用車でも可)	「1. できるし、している」 または 「2. できるけどしていない」 ：1 点
問 4(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問 4(6) 自分で食事の用意をしていますか	
問 4(7) 自分で請求書の支払いをしていますか	
問 4(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか	

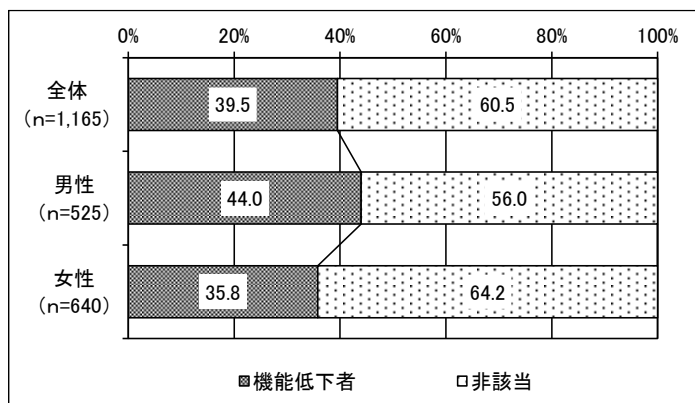
※上記設問のうち 1 問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

## (9) 知的能動

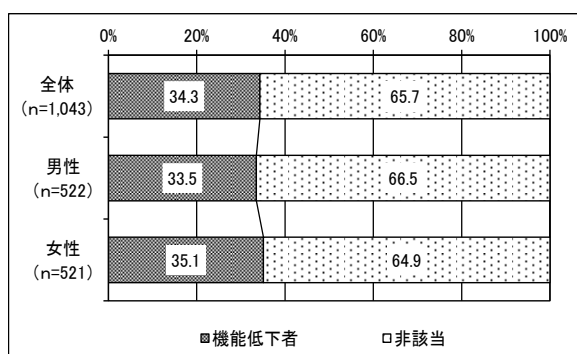
老研式活動能力指標をもとに、知的能動（余暇や造作などの積極的な知的活動能力）を判断する。

低下者（3点以下とする）割合は、全体では39.5%であり、男性の比率がやや高い。また、性・年齢別にみると、男女とも85歳以上になると低下者の割合は高くなり、男性は60.4%、女性は51.0%となっている。

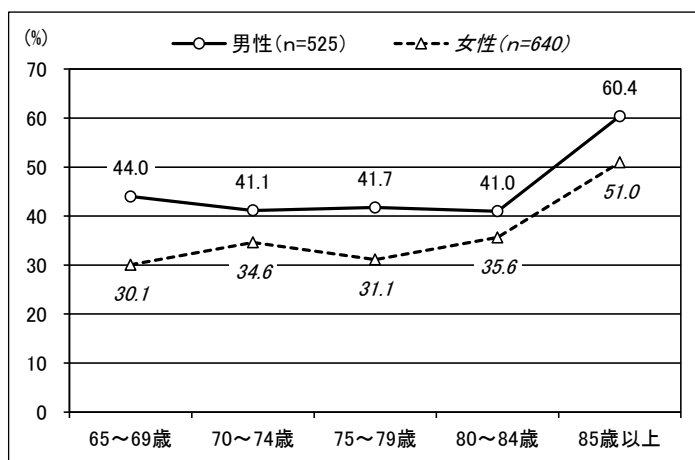
### ◇知的能動の低下者の状況



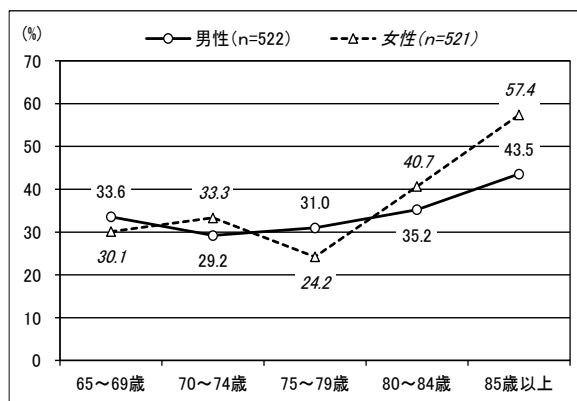
(前回：令和2年度)



### ◇性・年齢階級別知的能動の低下者の状況



(前回：令和2年度)



### ◇判定方法

下記4問で、4点=問題なし、3点：やや低い、0～2点：低い

設 問	該当する選択肢
問4(9) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「はい」：1点
問4(10) 新聞を読んでいますか	
問4(11) 本や雑誌を読んでいますか	
問4(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか	

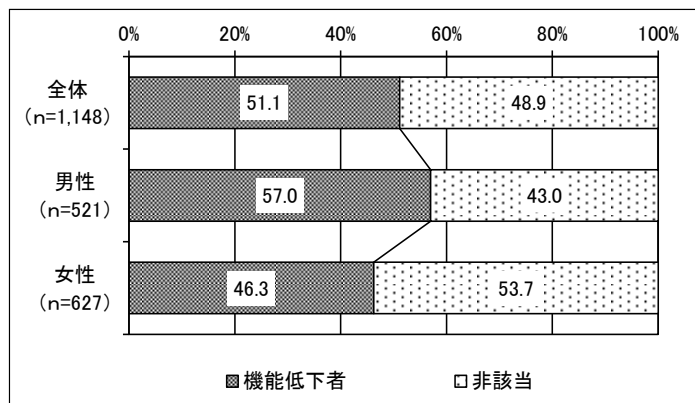
※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

## (10) 社会的役割

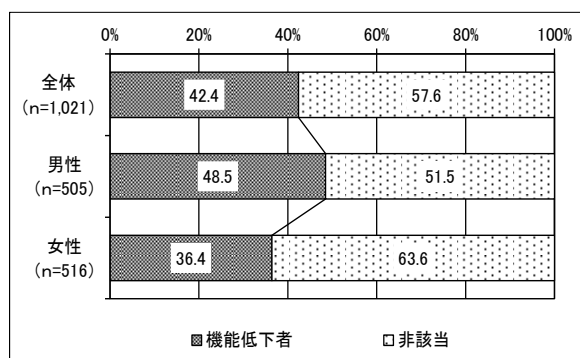
老研式活動能力指標をもとに、社会的役割（地域で社会的な役割を果たす能力）について判断する。

低下者（3点以下とする）割合は、全体では51.1%となっており、男性の比率が高い。また、性・年齢別にみると、男女とも85歳以上になると低下者の割合は高くなり、男性は78.8%、女性は64.9%と多数を占める。

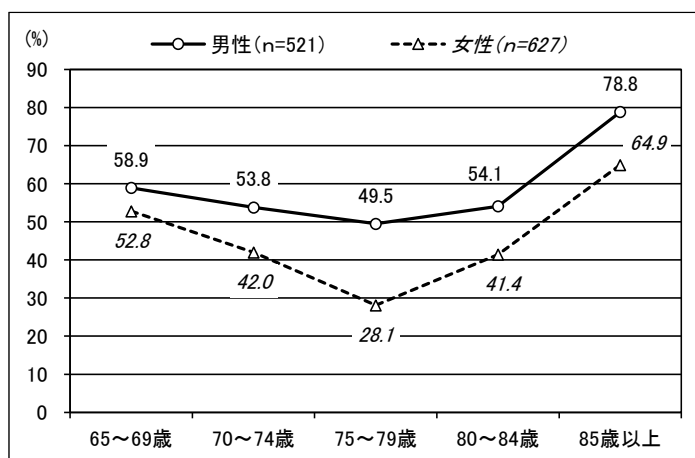
### ◇社会的役割の低下者の状況



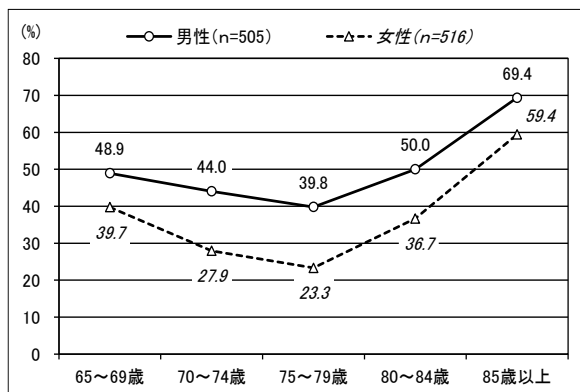
(前回：令和2年度)



### ◇社会的役割の低下者の状況



(前回：令和2年度)



### ◇判定方法

下記4問で、4点：問題なし、3点：やや低い、2点以下：低い

設 問	該当する選択肢
問4(13) 友人の家を訪ねていますか	「はい」：1点
問4(14) 家族や友人の相談にのっていますか	
問4(15) 病人を見舞うことができますか	
問4(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか	

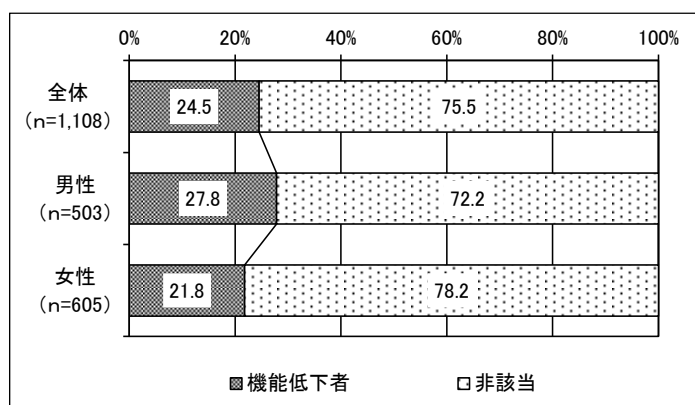
※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

## ( 1 1 ) 生活機能総合評価

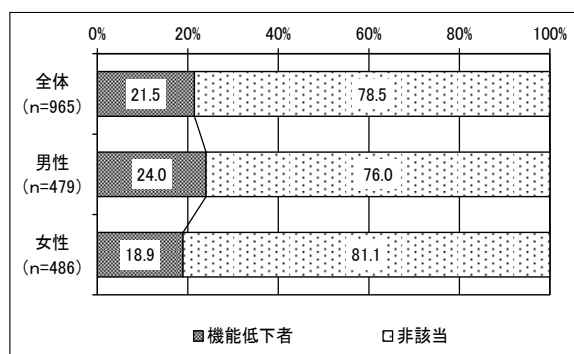
老研式活動能力指標をもとに、生活機能総合評価（手段的日常生活動作、知的能動性、社会的役割の13項目による総合評価）について判断する。

低下者（10点以下とする）割合は、全体では24.5%であり、男性の比率がやや高い。また、性・年齢別にみると、男女とも85歳以上になると急増し、50%以上となる。

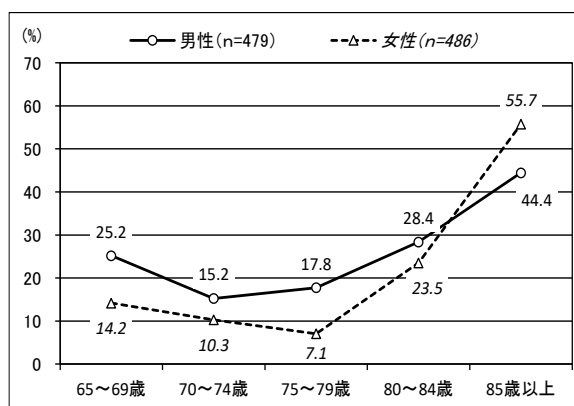
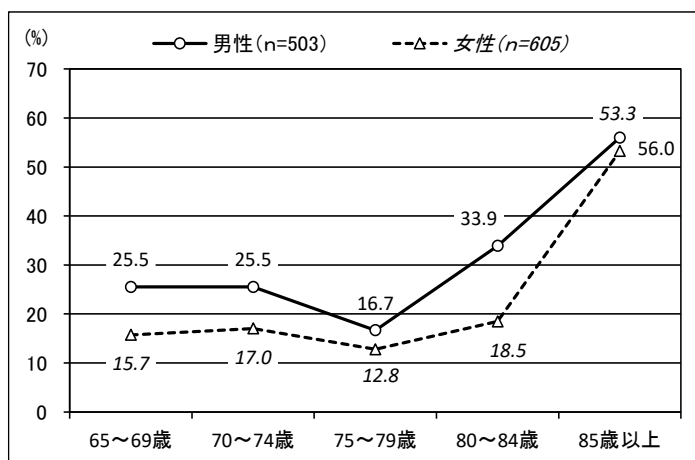
### ◇生活機能総合評価の低下者の状況



(前回：令和2年度)



### ◇性・年齢階級別生活機能総合評価の低下者の状況



### ◇判定方法

手段的日常生活動作、知的能動性、社会的役割の1設問で、11点以上：問題なし、9～10点：やや低い、8点以下：低い

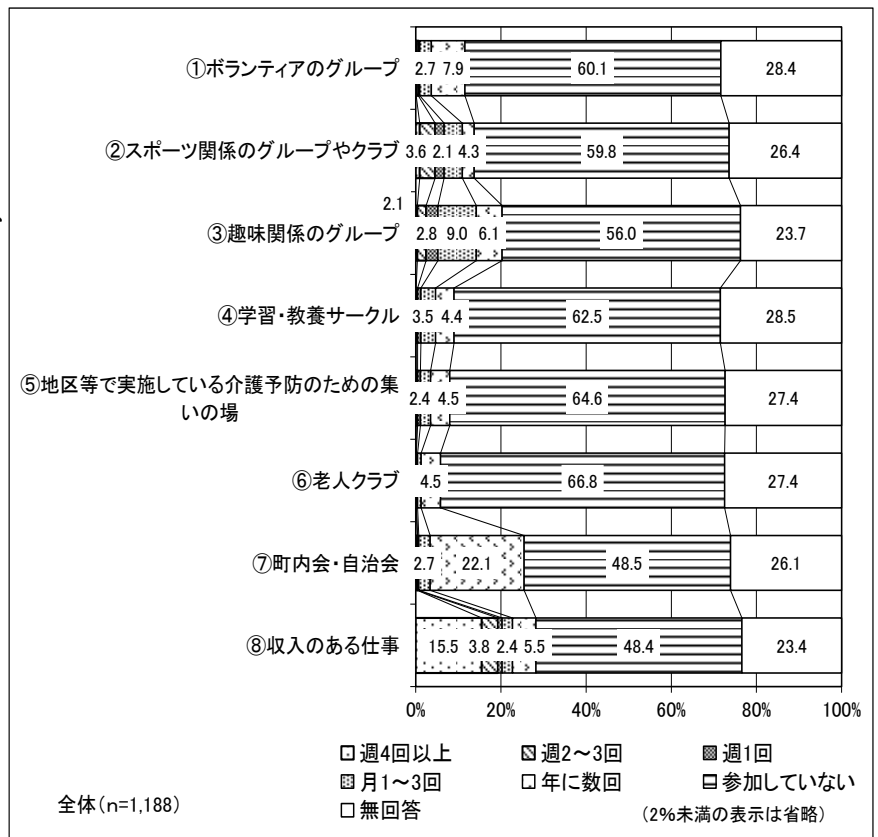
※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

### 3 地域での活動について

#### (1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

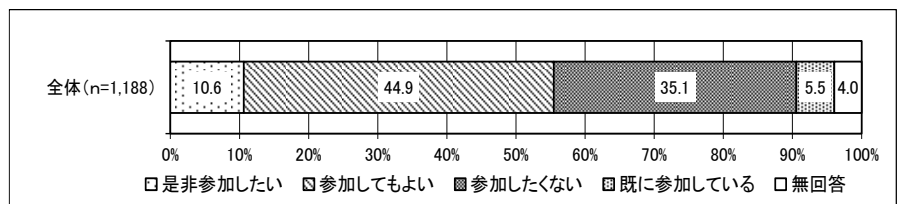
年に数回以上参加している人の比率は、①ボランティアのグループは11.5%、②スポーツ関係のグループ・クラブは13.8%、③趣味関係のグループは20.3%、④学習・教養サークルは9.0%、⑤地区等で実施している介護予防のための集いの場は8.0%、⑥老人クラブは5.8%、⑦町内会・自治会は25.4%、⑧収入のある仕事は28.2%となっている。

また、週4回以上及び週2～3回は「⑧収入のある仕事」(15.5%、3.8%)が、週1回及び「月1～3回」は「②スポーツ関係のグループやクラブ」(2.8%、9.0%)が、年に数回は「⑦町内会・自治会」(22.1%)が、それぞれ高い比率となっている。



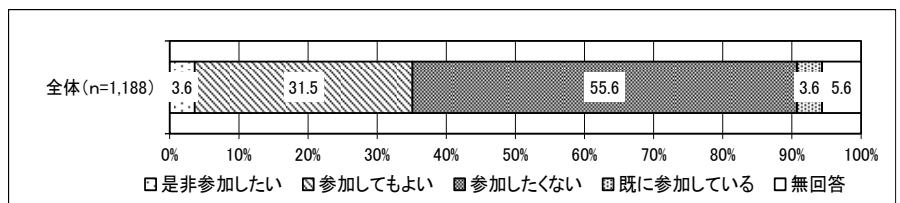
#### (2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか (☑は一つ)

- ・「是非参加したい」(10.6%)
- ・「参加してもよい」(44.9%)
- ・「参加したくない」(35.1%)



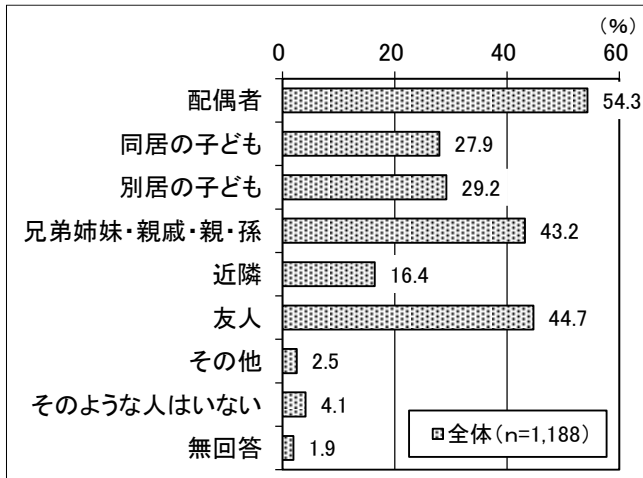
#### (3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか (☑は一つ)

- ・「是非参加したい」(3.6%)
- ・「参加してもよい」(31.5%)
- ・「参加したくない」(55.6%)

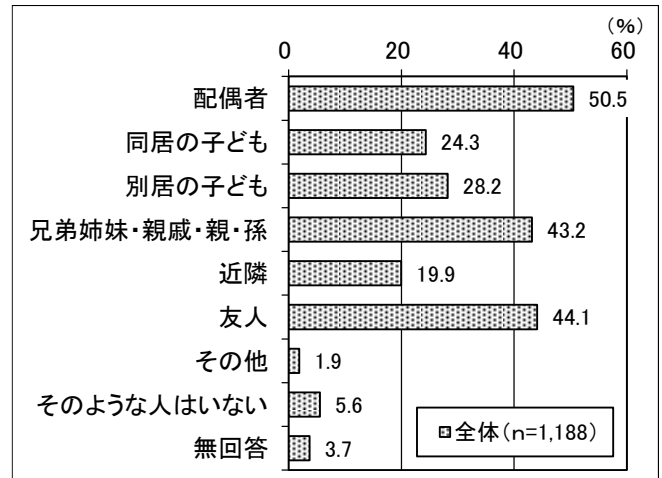


## 4 たすけあいについて

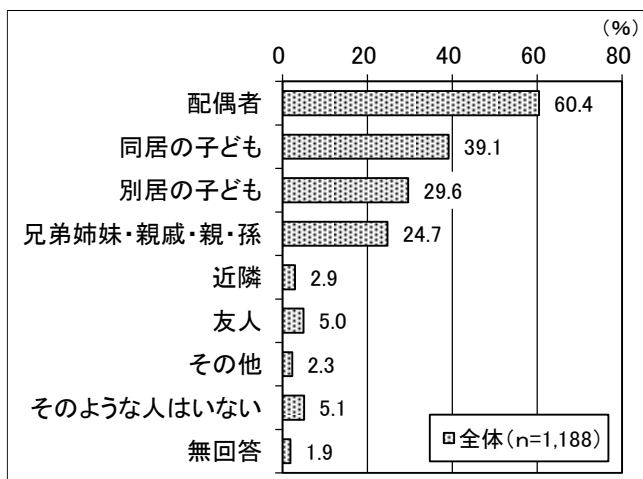
◇心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人



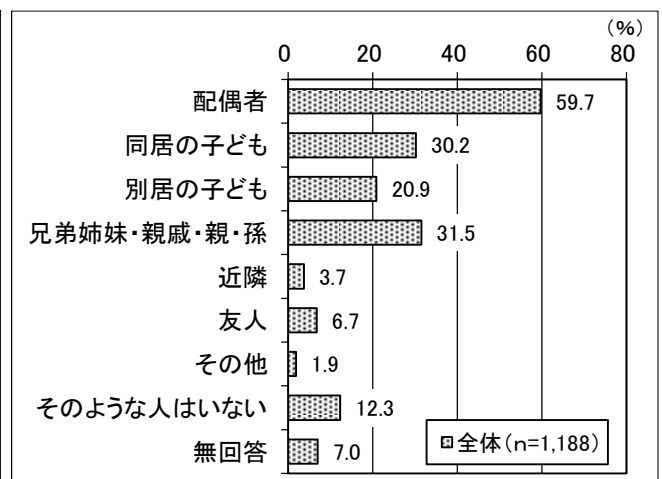
◇反対に心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人



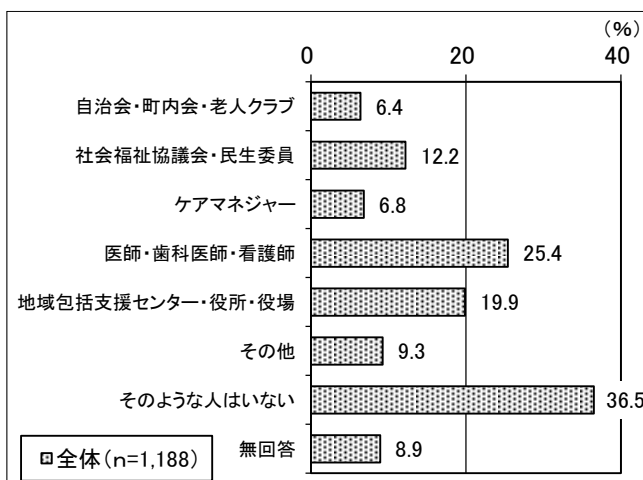
◇病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人



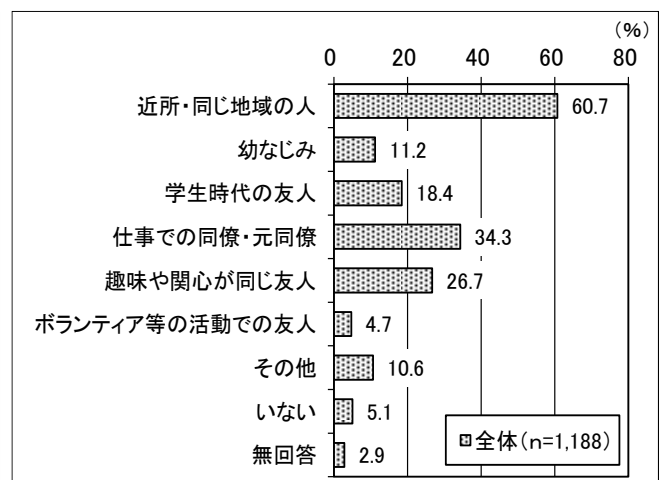
◇反対に、看病や世話をしてくれる人



◇家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手



◇よく会う友人・知人はどんな関係の人

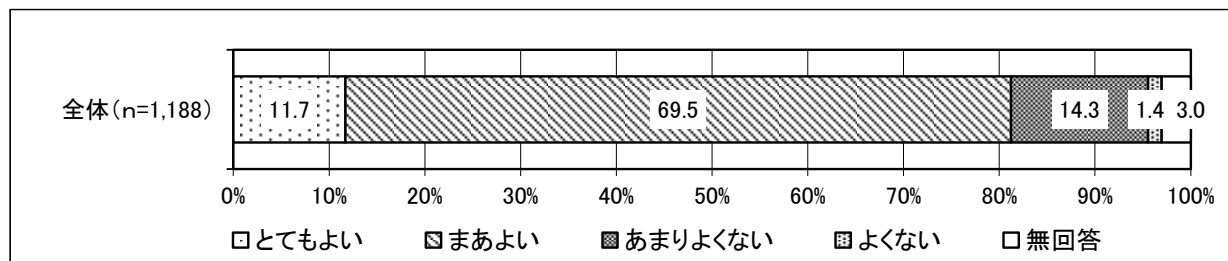




## 5 健康について

### (1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか (☑は一つ)

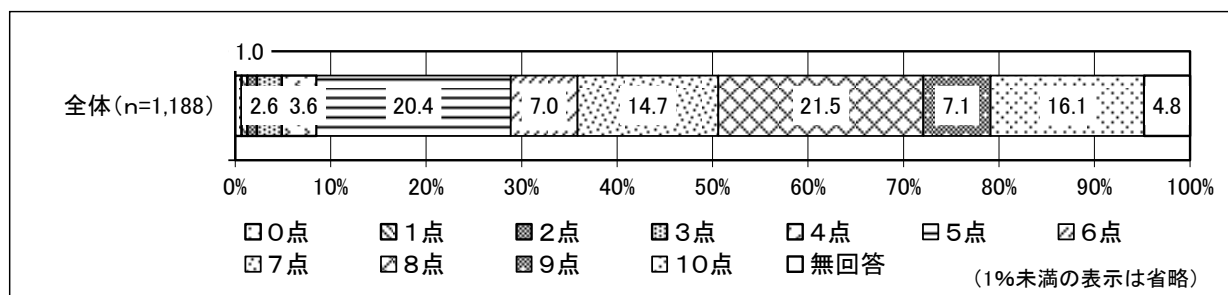
健康状態については、「まあよい」が69.5%と多数を占め、「とてもよい」(11.7%)と合わせて“よい”が81.2%である。一方、「あまりよくない」(14.3%)と「よくない」(1.4%)を合わせて“よくない”は15.7%となっている。



### (2) あなたは、現在どの程度幸せですか (☑は一つ)

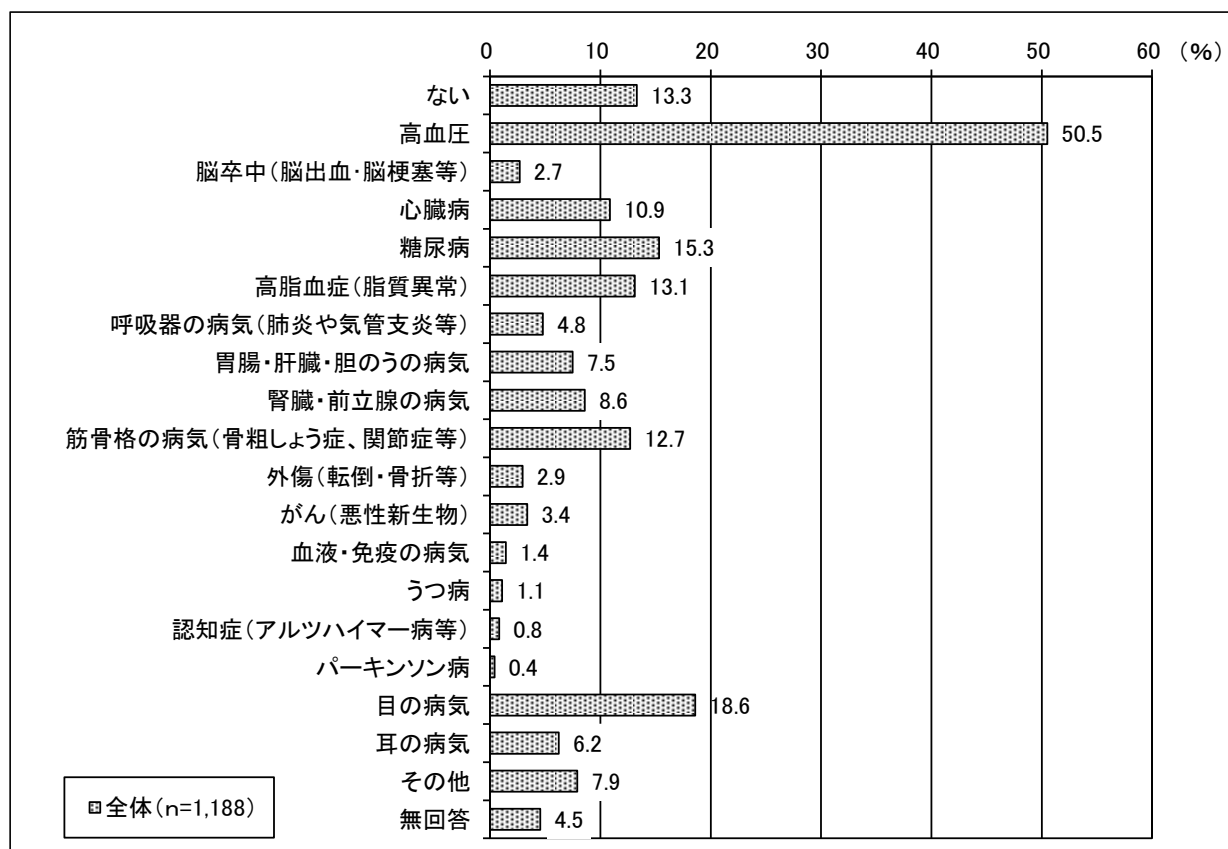
(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

幸せの度合いについて、とても不幸を0点、とても幸せを10点とすると、「8点」が21.5%と最も高く、以下、「5点」(20.4%)、「10点」(16.1%)、「7点」(14.7%)、「9点」(7.1%)、「6点」(7.0%)と続いており、平均点は7.02点となっている。



### (3) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(あてはまるものすべてに☑)

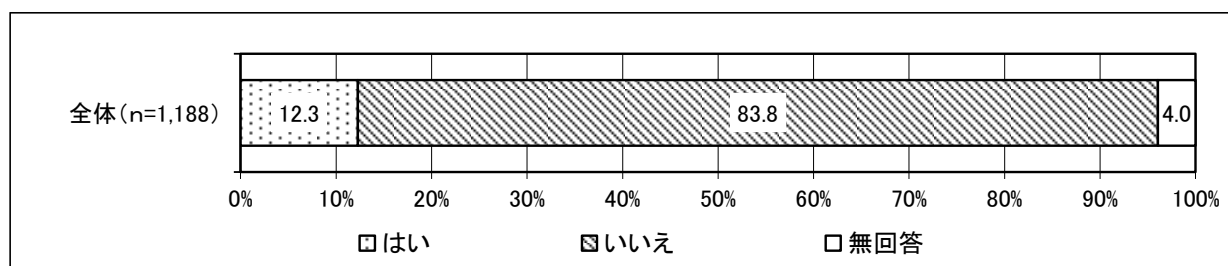
現在治療中、または後遺症のある病気については、「高血圧」が50.5%と最も高く、以下、「目の病気」(18.6%)、「糖尿病」(15.3%)、「高脂血症 (脂質異常)」(13.1%)、「筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関節症等)」(12.7%)、「心臓病」(10.9%)と続いている。なお、「ない」は13.3%となっている。



## 6 認知症にかかる相談窓口の把握について

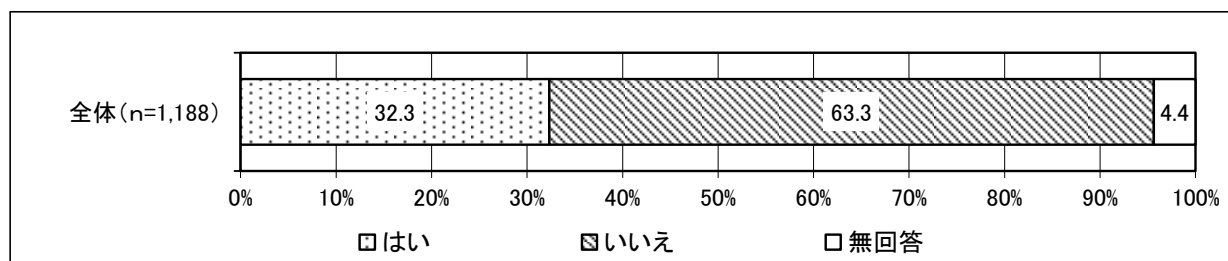
### (1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか (☑は一つ)

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかについては、「いいえ」が 83.8%と多数を占め、「はい」は 12.3%となっている。



### (2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか (☑は一つ)

認知症に関する相談窓口を知っているかについては、「いいえ」が 63.3%と多数を占め、「はい」は 32.3%となっている。



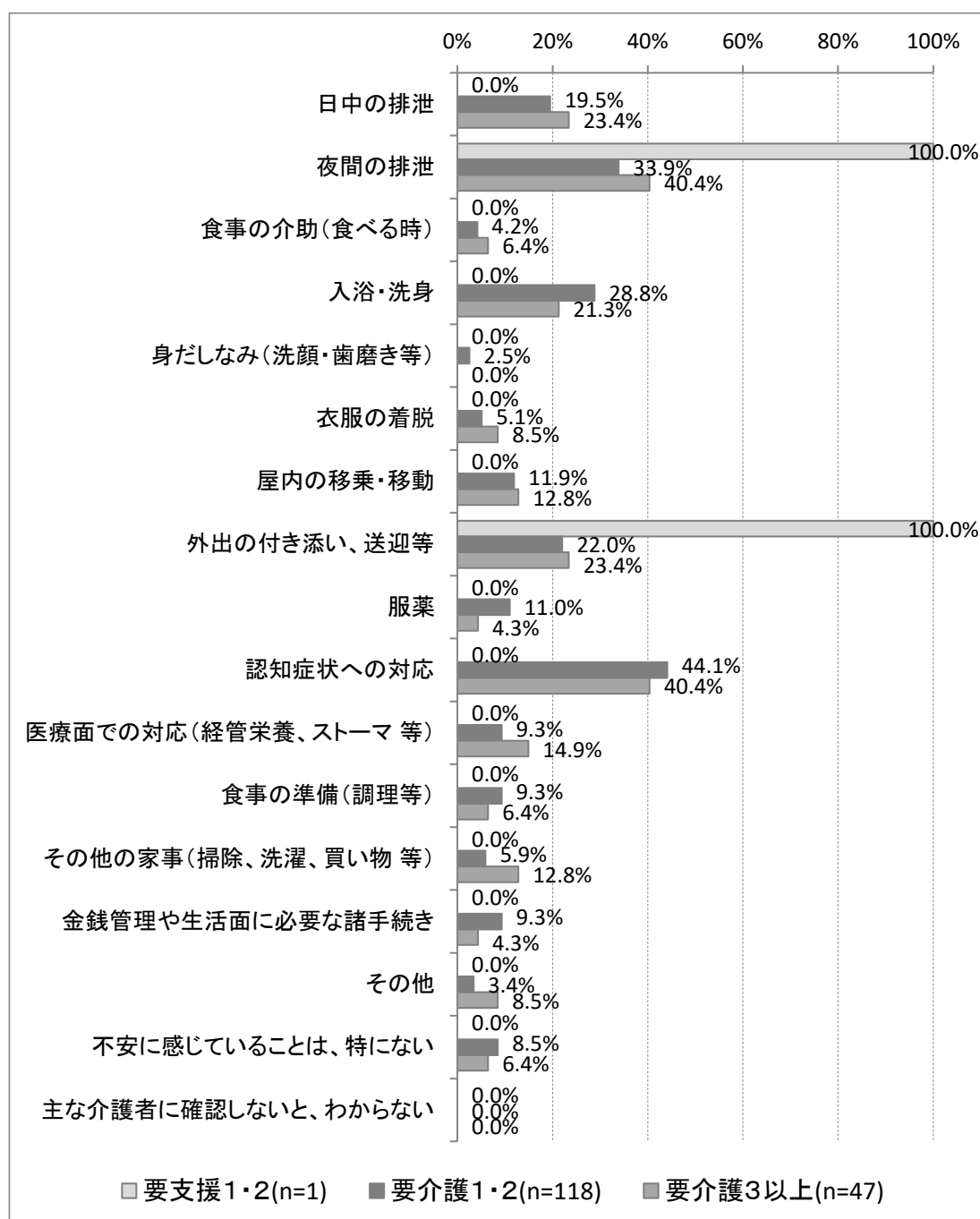
## ◇在宅介護実態調査

### 1. 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

#### (1) 「認知症状への対応」や「(日中及び夜間の)排泄」、「外出支援」に焦点を当てた対応策の検討

介護者が不安に感じる介護について、要介護1以上では「認知症状への対応」や「夜間の排泄」、「入浴・洗身」の3点が大きい結果となっており、この介護不安を如何に軽減していくかが、在宅限界点の向上を図るための重要なポイントになると考えられる。

#### ◇要介護度別・介護者が不安に感じる介護



## (2) 複数の支援・サービスの一体的な提供に向けた支援・サービスの検討

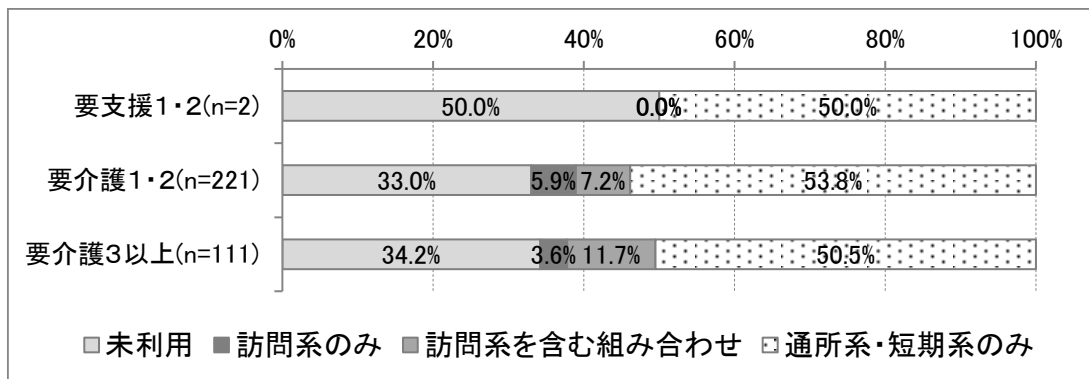
「要介護度」と「サービス利用の組み合わせ」の関係から、要介護度の重度化に伴い、「訪問系サービスを含む組み合わせ」の利用が増加する傾向がみられた（※要支援1・2は対象者が少なく傾向判断から除外する）。

また、「訪問系のみ」や「訪問系を含む組み合わせ」を利用しているケースでは、施設等を「検討していない」との回答が多い傾向がみられた。

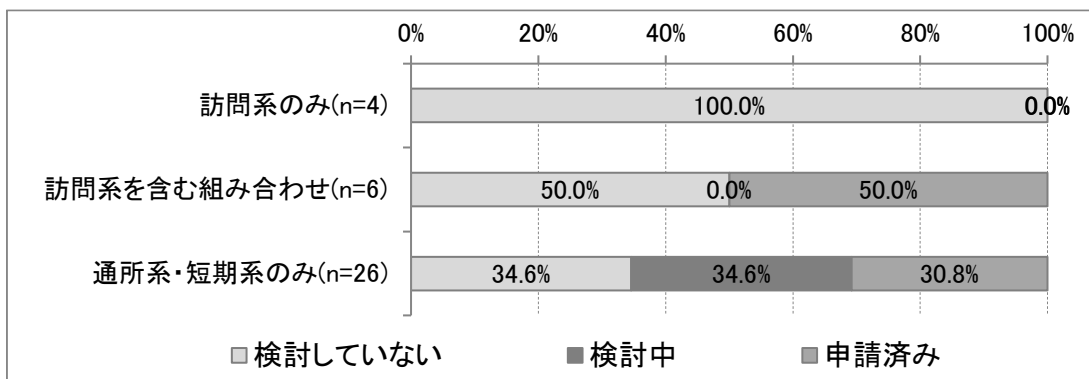
「サービスの利用回数」と「施設等検討の状況」の関係から、「訪問系」サービスでは利用回数の増加が、施設等を「検討していない」との回答が多くなる傾向がみられた。

このように、在宅生活の継続に向けては、「訪問系」サービスの利用を軸としながら、必要に応じて「通所系・短期系」といったサービスを組み合わせ利用していくことが効果的であり、今後は中重度の在宅療養者が増加していく中で、このような複数の支援・サービスを如何に一体的に提供していくかが重要になると考えられる。

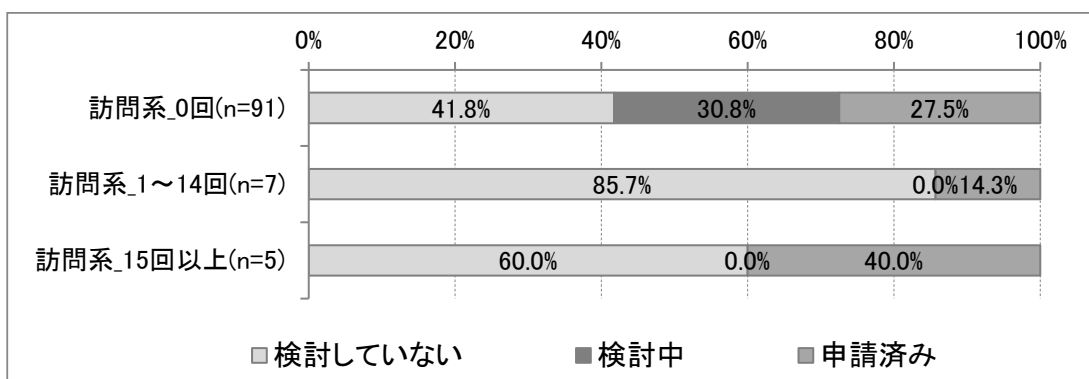
### ◇要介護度別・サービス利用の組み合わせ



### ◇サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



### ◇サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）



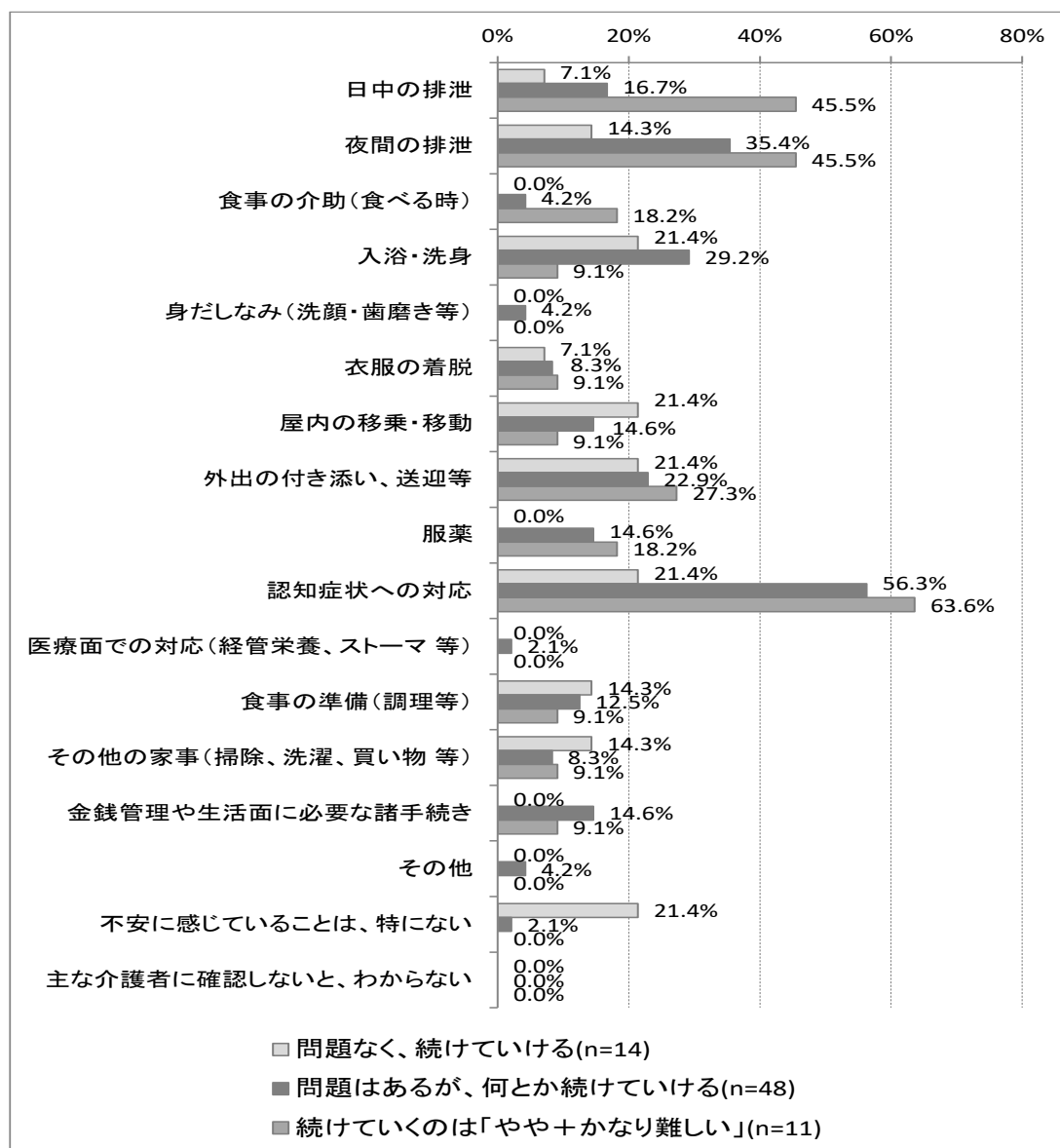
## 2. 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

### (1)「就労継続に問題はあるが、何とか続けていける」層の仕事と介護の両立関わる課題を解決するための支援の検討

就業を「問題なく、続けていける」と回答した層は、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度が軽く、支援ニーズそのものが低い可能性がある。一方、「問題はあるが、何とか続けていける」や「続けていくのは、やや難しい」と回答した層は、介護サービスや職場の働き方の調整を通じて支援すべき主な対象と考えられる。この層が不安に感じる介護には、「認知症状への対応」や「(日中及び夜間の)排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、「入浴・洗身」、「服薬」などの割合が高くなっている。

介護サービスに対するニーズは、要介護者の状況だけでなく、介護者の就労状況等によっても異なると考えられる。介護者の多様な就労状況に合わせた柔軟な対応が可能となる訪問系サービスや通所系・短期系サービスの組み合わせ、小規模多機能型居宅介護などの包括的サービスを活用することが、仕事と介護の両立を継続させるポイントになると考えられる。

#### ◇就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



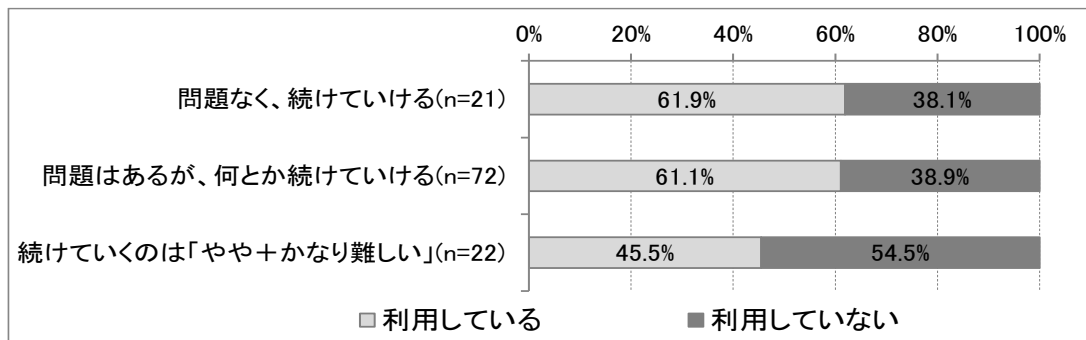
## (2) 必要となるサービスの詳細な把握と、適切なサービス利用の推進

就労継続見込みを「問題なく、続けていける」と考えている人で、介護保険サービスの利用割合がわずかながら高い傾向がみられた。

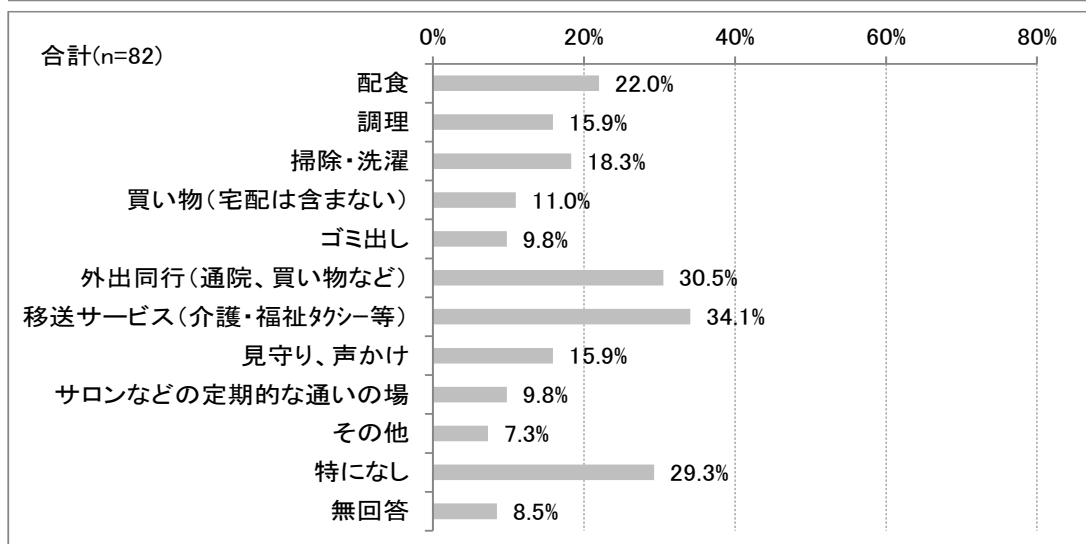
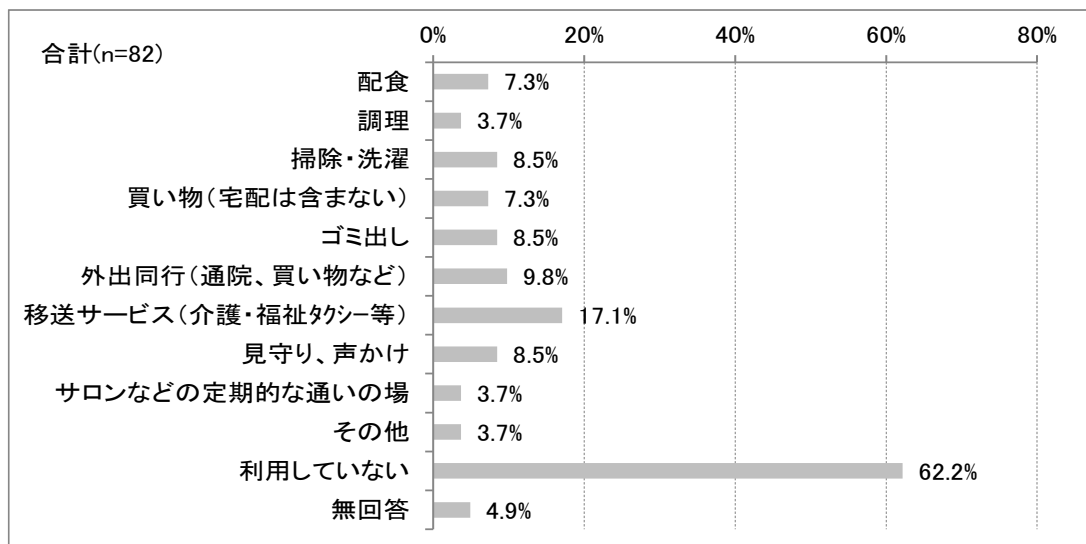
また、在宅生活の継続に「必要と感じる」生活支援サービスは、実際には「必要と感じる」ほどは利用されていない状況となっている。

就労継続が困難な介護者においては、介護保険以外も含めて、必要となるサービスを把握し、そのサービス利用の提供・利用促進に向けた体制等の整備を図っていくことが重要と考えられる。

### ◇就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



### ◇利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）



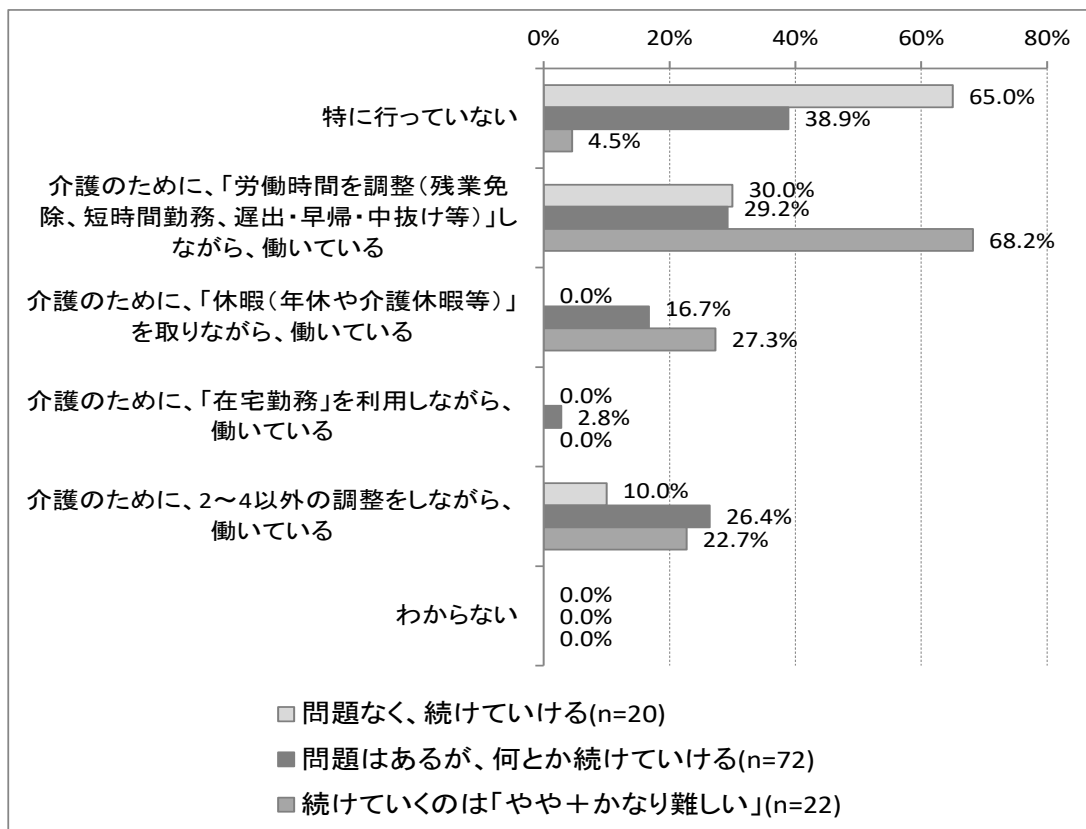
### (3) 仕事と介護の両立に向けた、職場における支援・サービスの検討

「問題はあるが、何とか続けていける」と考えている人では、「労働時間を調整」や「休暇の取得」など、何らかの調整を行っている人が6割以上となっている。

「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「労働時間を調整」が68.2%と最も割合が高く、次いで「休暇」が27.3%、「2～4以外の調整」が22.7%となっており、「特に行っていない」はわずかに4.5%となっている。

介護休業等の両立支援制度を導入するとともに、広く「仕事と介護の両立」に関する情報提供を行い、制度等を利用しやすい環境が整えられていくことが望まれる。

◇就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



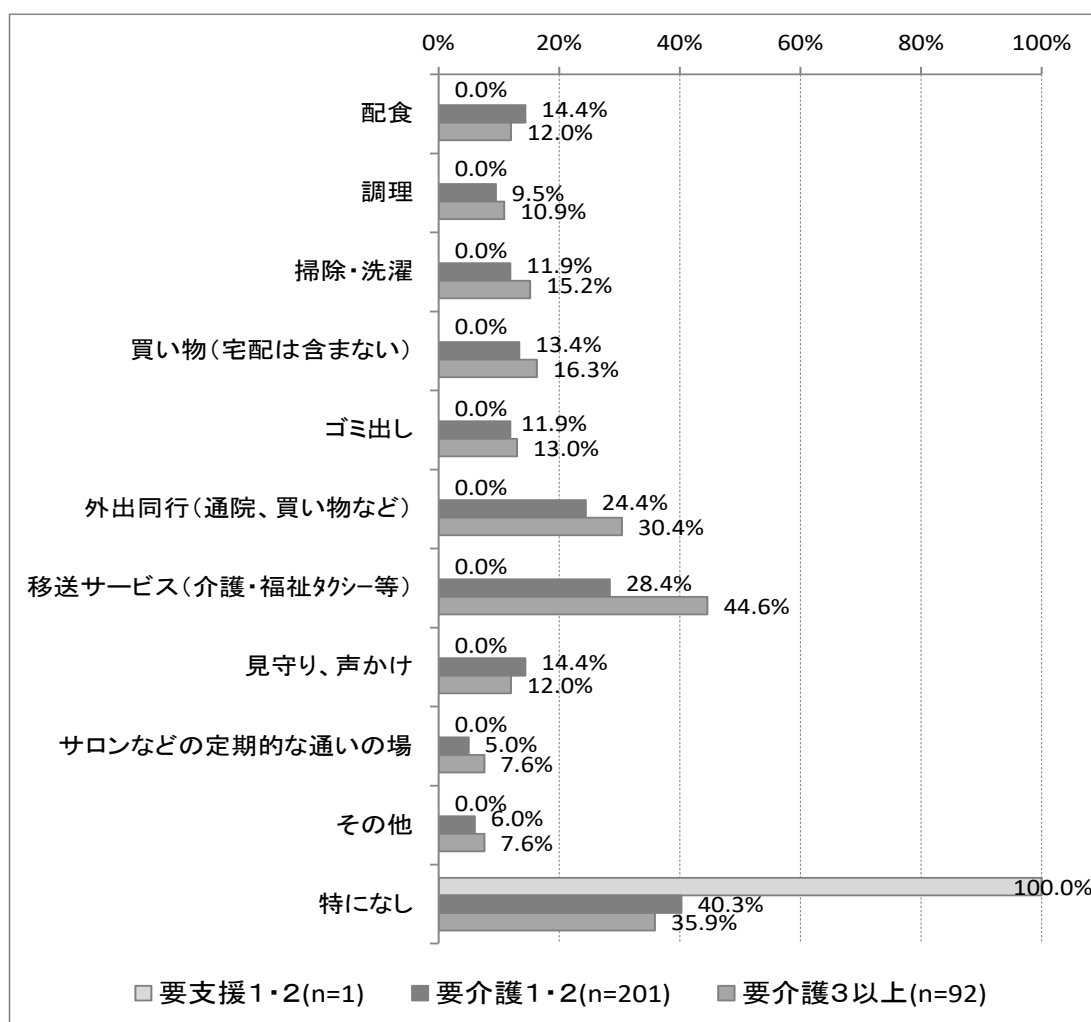
### 3. 介護保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

要介護度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについてはみると、「配食」と「見守り、声かけ」以外の項目は、介護度が高くなるほど比率が高くなっており、特に「移送サービス」では要介護3以上は44.6%と、要介護1・2の28.4%を大きく上回っている。

要介護度の重度化防止は、今後も大きな課題である。介護保険サービスだけでなく、総合事業や介護保険外の支援・サービスの創出・利用促進を合わせて進めていくことが求められる（※要支援1・2は対象者が少なく傾向判断から除外する）。

軽度の方については、総合事業や保険外の支援・サービスの積極的な利用促進を図るとともに、資格を有する訪問介護員等については、中重度の方へのサービス提供に重点化を図ることで、地域全体として、全ての要介護者への対応を可能とする支援・サービス提供体制の構築を進めていくことが重要であると考えられる。

#### ◇要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス





#### 4. 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

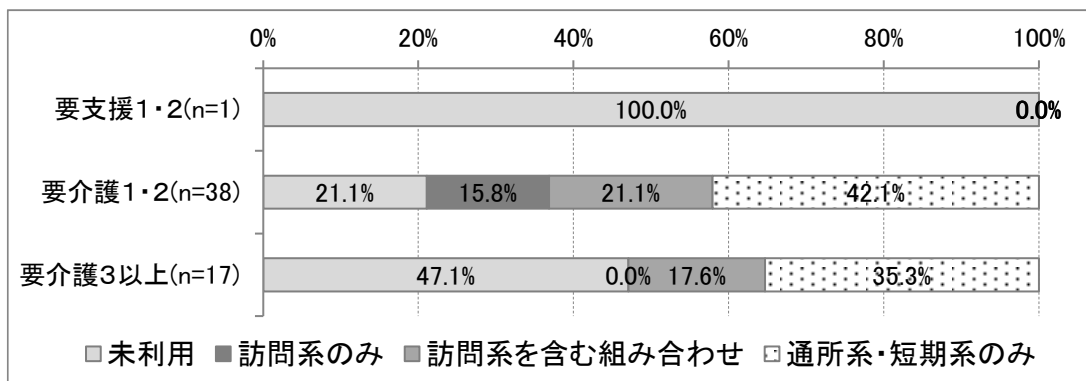
##### (1) 単身世帯の要介護者の在宅療養生活を支えるための、支援・サービスの検討

今後も高齢者のみの「単身世帯」や「夫婦のみ世帯」の増加が見込まれる。

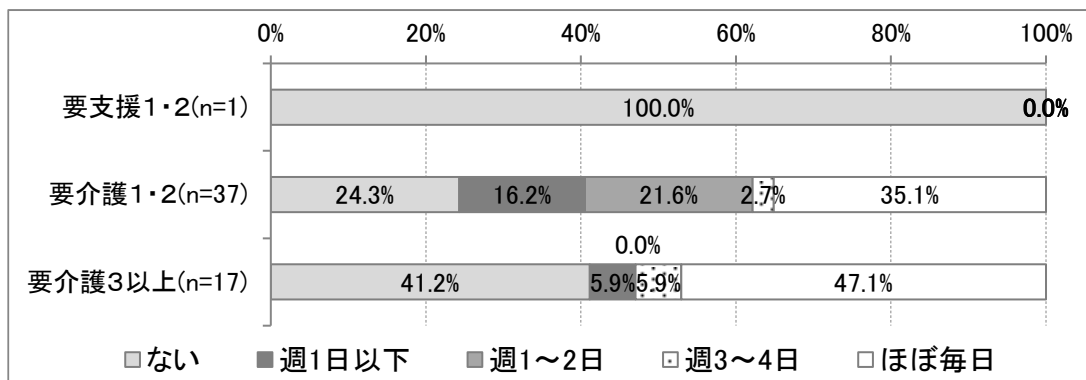
単身世帯においては、「通所系・短期系」の比率が高く、要介護1・2以上では約4割となっている。今後は、訪問系を軸として「通所系・短期系」とのサービスの組み合わせ利用のための体制整備を図るとともに、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の整備などを進めることにより中重度の単身世帯の方の在宅療養生活を支えていくことが一つの方法として考えられる。

また、在宅生活を継続している要介護3以上の単身世帯の方の47.1%は、家族等による介護が「ほぼ毎日ある」世帯であり、一方、家族等による介護が「ない」世帯が41.2%である。この家族等による介護が「ない」世帯のケアマネジメントについて調査を行うとともに、不足する資源の検討やノウハウの集約・共有を進めていくことが望まれる。

◇要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



◇要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）

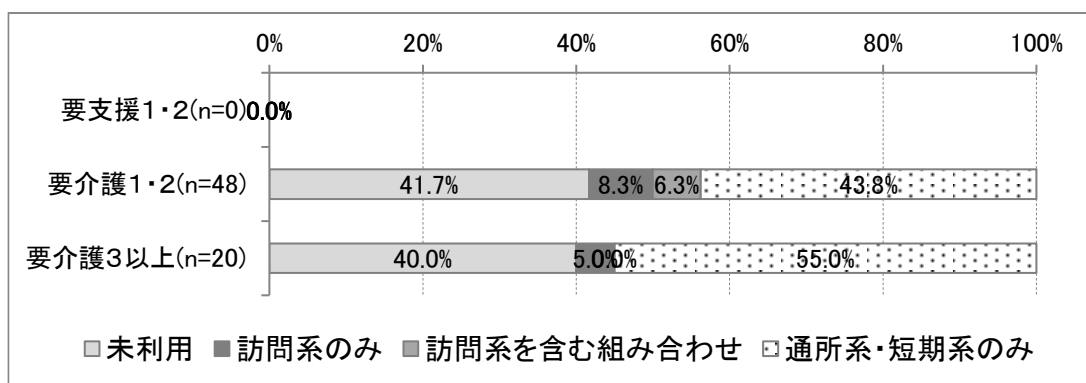


## (2) 夫婦のみ世帯・その他世帯の在宅療養生活を支えるための、支援・サービスの検討

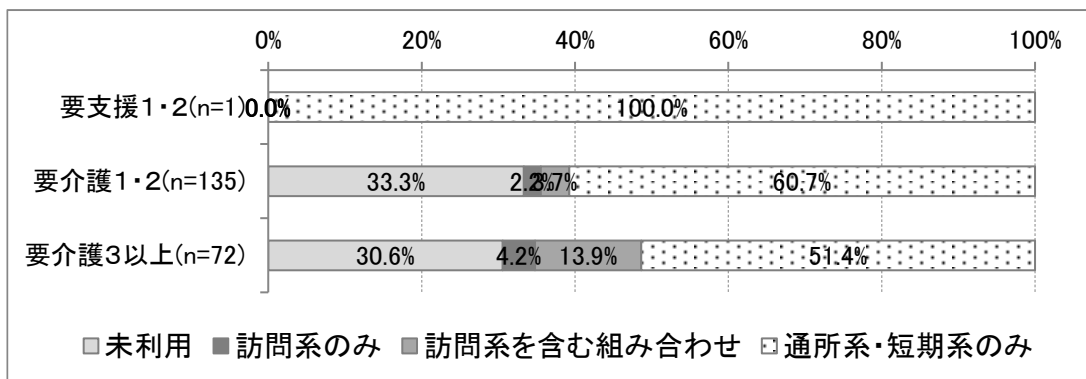
要介護1・2以上の中重度の要介護者について、「夫婦のみ世帯」と「その他世帯」では、「単身世帯」と同様、「通所系・短期系のみ」の割合が高い傾向がみられた。これは、同居の家族がいる世帯では、家族等の介護者へのレスパイトケアの必要性が高いことから、「訪問系のみ」でなく、レスパイトケアの機能をもつ「通所系」や「短期系」を含む利用が多くなっていると考えられる。

今後は「通いを中心とした包括的サービス拠点」である「小規模多機能型居宅介護（もしくは看護小規模多機能型居宅介護）」の整備などにより、夫婦のみ世帯及びその他世帯の在宅療養生活を支えていくことが一つの方法として考えられる。

### ◇要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



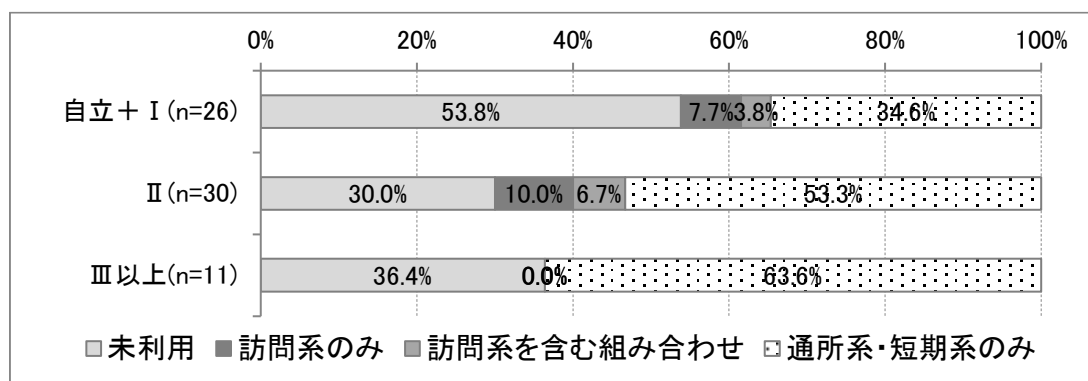
### ◇要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



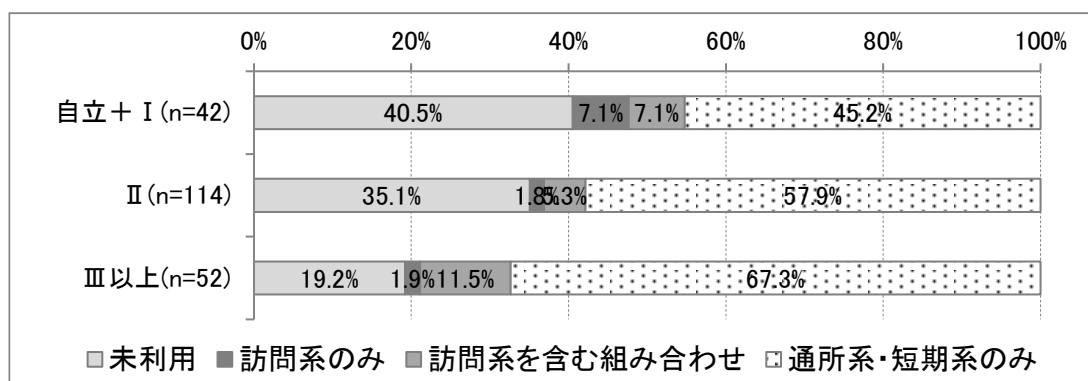
「夫婦のみ世帯」と「その他世帯」については、認知症が重度化したケースにおいても、「通所系・短期系のみ」の利用割合が高く、レスパイトケアへのニーズが高い傾向も見受けられる。

在宅生活の継続に向けては、「通所系」や「短期系」などの専門職によるサービス提供の拡充に努めるとともに、家族等介護者や地域住民など全ての町民を対象に、認知症と認知症ケアに係る理解を深めるための広報周知や研修等を推進するなど、地域全体で認知症の人とその家族を支えるための体制づくりを行っていくことも不可欠であると考えられる。

◇認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



◇認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



## 5. 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

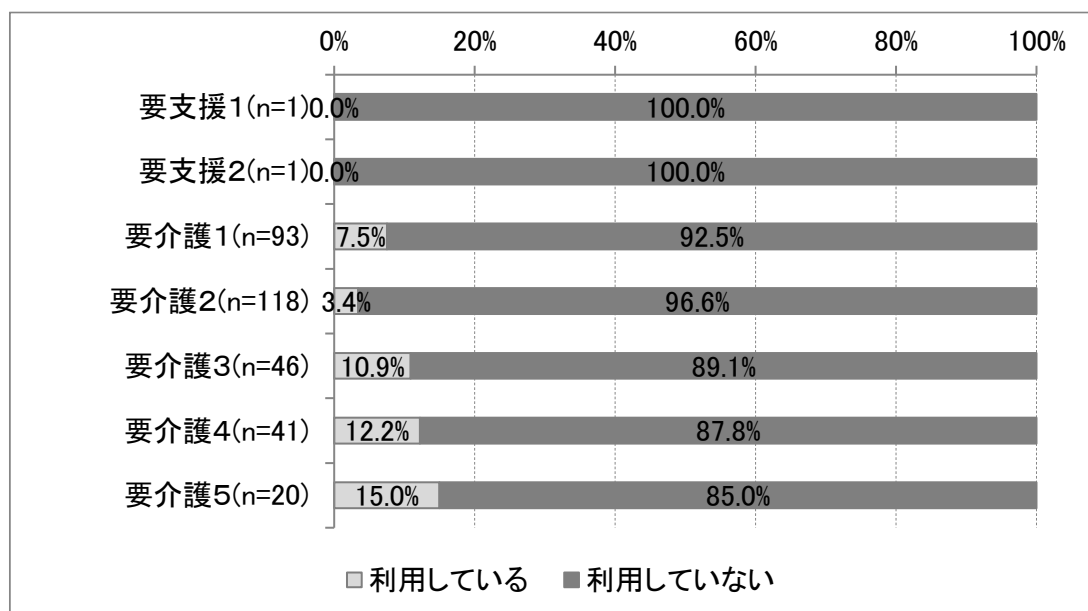
### (1) 医療ニーズのある要介護者の在宅療養生活を支える新たな支援・サービスの検討

介護度の重度化に伴い、「訪問診療」の利用割合が増加する傾向が顕著となっている。

また、要介護3以上について、訪問診療の有無別のサービス利用の組み合わせをみると、訪問診療を利用している人は「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなっており、訪問看護等を組み合わせで利用していると考えられる。

今後、「介護と医療の両方のニーズを持つ在宅療養者」の増加が見込まれることから、在宅医療に対するサービス提供体制を確保していくとともに、「看護小規模多機能型居宅介護」や「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」等を検討していくことが望まれる。

◇要介護度別・訪問診療の利用割合



◇訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）

